

緒言

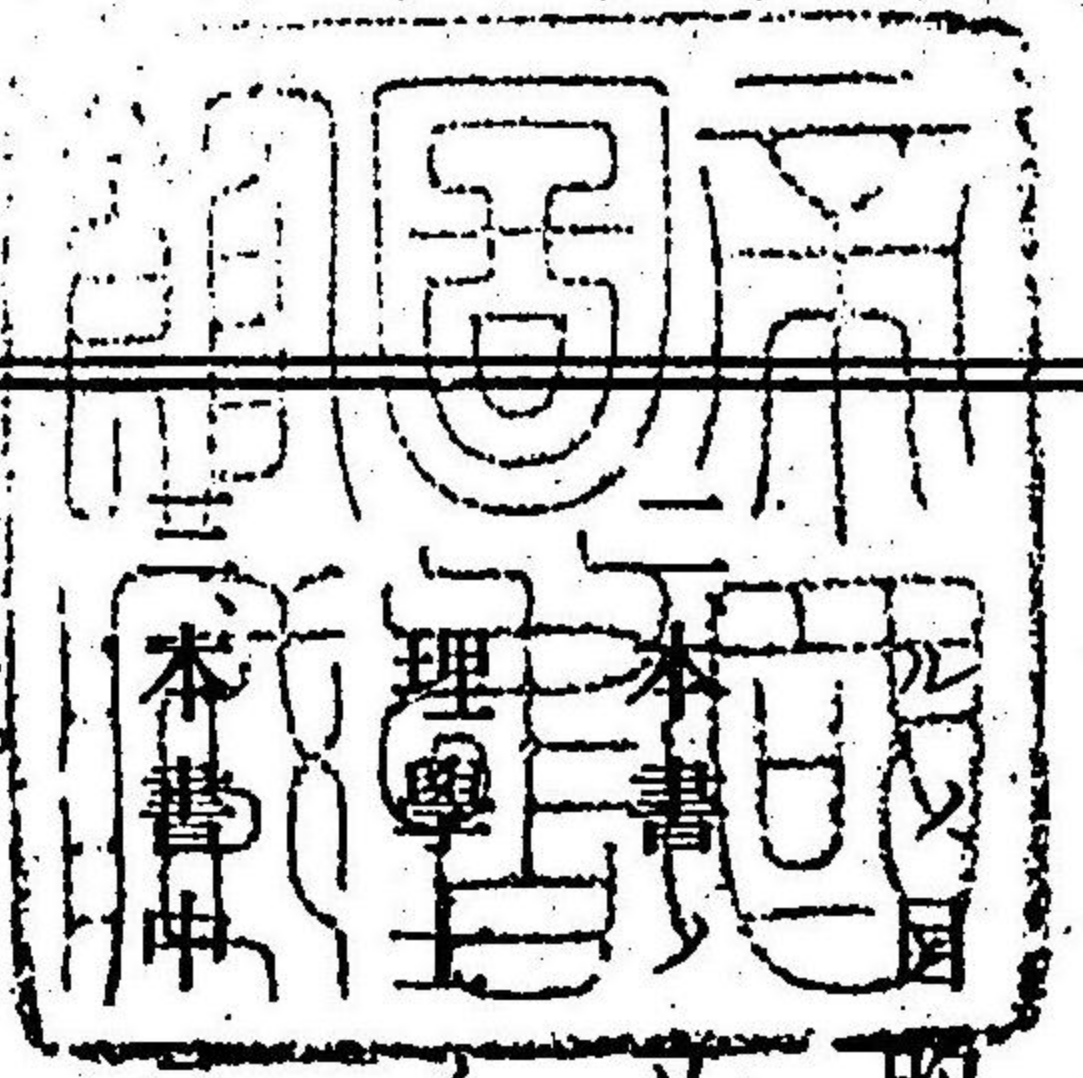
一、本書ノ編述ハ、中等學校ノ初年級ニ於テ、地理學概論ヲ授ク
 目的ニ供センガ爲メナリ。
 二、本書ノ立案ハ、太田、叙述ハ、加藤、主トシテコレニ當リ、且山上
 ノ嚴密ナル校閲ヲ經タリ。
 三、引用スル所ノ圖畫ハ、多ク山上理學士ノ著書ニヨ
 ル。
 四、本書ノ文章ハ、平易ヲ主トシ、事實ハ、梗概ヲ舉ゲ、教授當局ノ
 士ヲシテ、敷衍ノ餘地ヲ存セシム。



地理學上ノ用假想圖



- 1. 平原
- 2. 高山
- 3. 火山
- 4. 火口
- 5. 丘陵
- 6. 嶋嶼
- 7. 牛島
- 8. 峯
- 9. 峯
- 10. 峯
- 11. 峯
- 12. 峯
- 13. 峯
- 14. 峯
- 15. 峯
- 16. 峯
- 17. 峯
- 18. 峯
- 19. 峯
- 20. 峯
- 21. 峯
- 22. 峯
- 23. 峯
- 24. 峯
- 25. 峯
- 26. 峯
- 27. 峯
- 28. 峯
- 29. 峯
- 30. 峯



緒言

一、本書ノ編述ハ、中等學校ノ初年級ニ於テ、地理學概論ヲ授ク
 的ニ供センガ爲メナリ。
 立案ハ、太田叙述ハ、加藤主トシテコレニ當リ、且山上
 ノ嚴密ナル校閲ヲ經タリ。
 二、引用スル所ノ圖畫ハ、多ク山上理學士ノ著書ニヨ
 ル。
 四、本書ノ文章ハ、平易ヲ主トシ、事實ハ、梗概ヲ舉ゲ、教授當局ノ
 士ヲシテ、敷衍ノ餘地ヲ存セシム。



地理學上ノ假想圖



- 1. 高原
- 2. 火山
- 3. 山脈
- 4. 火山
- 5. 丘陵
- 6. 島嶼
- 7. 島嶼
- 8. 峽
- 9. 峽
- 10. 谷
- 11. 谷
- 12. 街
- 13. 街
- 14. 街
- 15. 街
- 16. 支
- 17. 支
- 18. 支
- 19. 支
- 20. 支
- 21. 支
- 22. 支
- 23. 支
- 24. 支
- 25. 支
- 26. 支
- 27. 支
- 28. 支
- 29. 支
- 30. 支

五、地理ノ教授ハ、地圖繪畫寫眞等、教授用材料ノ豊富ト相待チ
 テ、始メテ能ク其目的ヲ達スルヲ得ベシ。當局ノ士、本書ヲ用
 フルニ當リ切ニ此點ニ注意アラシムコトヲ望ム。

明治三十二年七月

著者 共 識

地理學新教科書目次

第一篇。世界地理要領。

第一章。自然地理……………自一頁至八頁

第一節。陸界。

著名の島嶼……………著名の半島……………地勢……………河川

第二節。水界。

海及び灣

第二章。アジア……………自八頁至一〇頁

朝鮮帝國……………支那帝國……………支那本部……………滿洲……………盛京……………蒙古……………伊犁
 ……西藏……………印度支那……………暹羅王國……………馬來半島……………印度……………イラン高
 原諸國……………アラビア……………アジアトルコ……………ロシア領アジア……………コーカサス…
 中アジア……………シベリア
 第三章。ヨーロッパ……………自一〇頁至三五頁
 南部諸國……………トルコ……………ギリシヤ……………イタリー……………スペイン……………ポルチユ

目次

目次

ガル……………西部諸國……………フランス……………イギリス……………ベルギー……………オランダ……………デンマーク……………ドイツ……………スイツツル……………オーストリア、ハンガリー……………東部諸國……………ロシア……………スウイーデン、ノールウエイ……………

第四章 アフリカ……………自三五頁至三八頁

エジプト……………東部アフリカ……………南部アフリカ……………西部アフリカ……………スーダン……………

第五章 オセアニア……………自三八頁至四一頁

オーストラリア……………タスマニア……………ニュージーランド……………マレーシア群島……………ポリネシア群島……………サンドウイシチ諸島……………

第六章 北アメリカ……………自四一頁至四六頁

グリーンランド……………イギリス領アメリカ……………北アメリカ合衆國……………メキシコ……………中央アメリカ……………西印度諸島……………

第七章 南アメリカ……………自四六頁至四九頁

北部の諸國……………コロンビア……………ヴェネチジュエラ……………ギアナ……………西部海岸の諸國……………エクアドル……………ペルー……………チリ……………東部の諸國……………アルジェンチン……………ウルガイ……………ブラジル……………内部の諸國……………ボリウエア……………パラガイ……………

第二篇。地理總論。

第一章 緒論……………

第一節 地理學の定義……………五〇頁

第二節 地理學の區分……………五〇頁

第二章 天文地理……………

第一節 星の區分……………五〇頁

恒星……………遊星……………衛星……………彗星……………流星……………

第二節 太陽系統……………五三頁

引力……………

第三節 太陽……………五三頁

第四節 太陰……………五五頁

新月……………滿月……………日蝕及月蝕……………

第五節 地球の形……………五七頁

第六節 線及度……………五八頁

目次

緯線……………經線

第七節 自轉及び公轉……………

六〇頁

自轉及び晝夜……………公轉及び四季……………晝夜の長短……………五氣候帶

第三章 地文地理

第一節 氣界……………

六四頁

空氣……………空氣の高度……………氣壓及び風……………貿易風……………我國の季候風……………空氣の溫度……………空氣の濕度……………雨雪

第二節 水界……………

七〇頁

水と陸……………洋海……………水の深淺……………海水の性質……………海水の溫度……………海水の運動……………波……………潮汐……………海流

第三節 陸界……………

七八頁

陸の區分……………大陸……………島……………陸地の形……………地形……………地勢……………平地……………山地……………窪地……………陸地の水……………泉……………溫泉……………川……………湖……………水源地の保護

第四節 氣候……………

八六頁

地味……………火山……………地震……………土地の昇降

第五節 天産……………

八七頁

植物……………動物……………礦物

第四章 人文地理

第一節 人種……………

八九頁

第二節 國……………

九〇頁

第三節 交通……………

九一頁

第四節 宗教……………

九三頁

第五節 政治……………

九三頁

第五章 地理史

地理學新教科書目次終

地理學新教科書

第一篇 世界地理要領。

第一章 自然地理。

第一節 陸界。

陸地を大別して、舊大陸、新大陸の二とす。舊大陸は、アジア、アフリカ、ヨーロッパ及びオセアニアの四大洲にして、新大陸は南アメリカ、北アメリカの二大洲なり、新舊兩大陸を統べて六大洲とす。

地理學新教科書

理學士

山上萬次郎 校閱

學習院教官

太田保一郎

合著

加藤庄三郎

著名の島嶼。 世界中の島嶼は、其數頗る多く、中に就きて大なるは、オセアニア洲に屬するニューギニア、ボルネオ、アフリカ洲のマダガスカル、我國の本州、イギリスの大ブリテイン、北アメリカのキユバ等これなり。ハワイ、香港、シンガポール等ハ、何れも大ならずと雖ども、甚だ大切なる島なり。

著名の半島。 世界中の半島は、南に向ひて突出するもの多し。

アジア洲の中、我千島と相對する、カムチャツカ半島あり、本州の西に、朝鮮半島あり、南支那海と印度洋とを限れるマレイ半島、其西に三角形なる印度半島あり、又其西にアラビア半島あり、地中海と黒海との間に、小アジア半島あり。

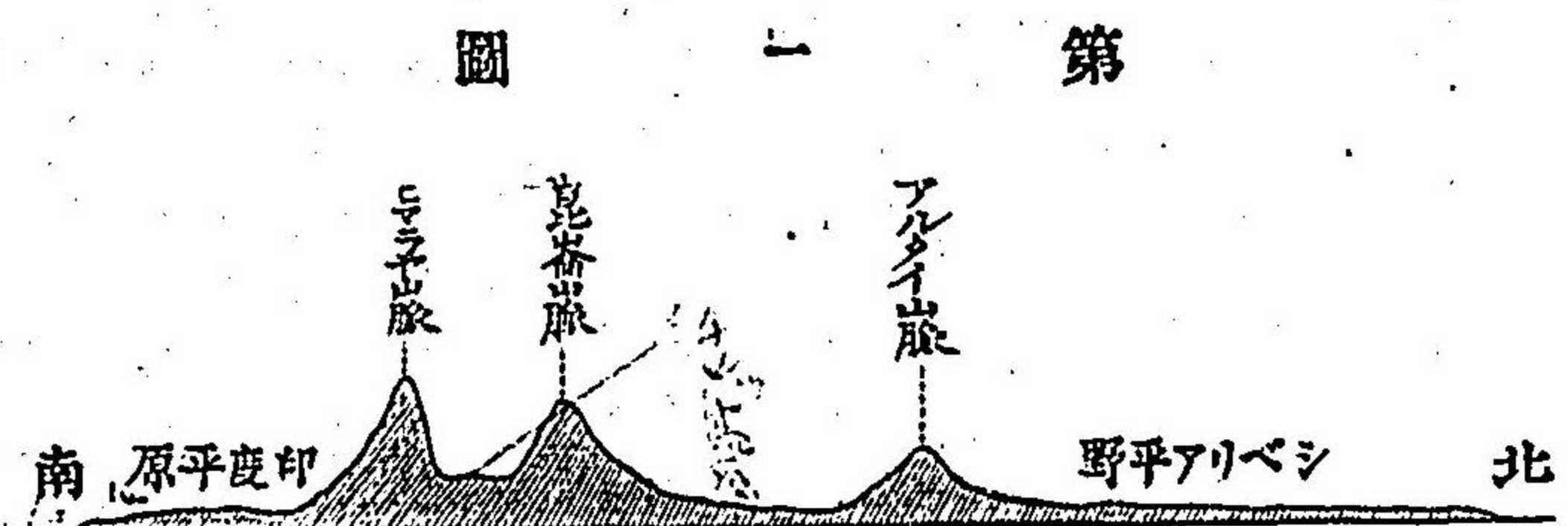
ヨーロッパ洲にては、地中海と黒海との間に、バルカン半島

突出して、アジア洲の小アジア半島と相對す、其西に長靴の形をなせるは、即ちイタリア半島なり、アイベリア半島は、本洲の西南端に突き出でたる、略四角形の半島なり、又西北部には、スカンデナヴィア半島、西南に向ひて突出す、

アフリカ洲は、其形ち恰も葡萄の葉に似たる大陸にして、海岸出入に乏しく、著しき半島なし。

北アメリカ洲には、東北に寒冷なるラブラドル半島あり、南部には、ユカタン・フロリダの二半島、南北より出で、メキシコ灣をなす。

西部、太平洋の濱には、大なる出入なく、狹長なるカリフォルニア半島、南に向つて突出す、北西部に、アラスカ半島あり、狭きベーリング海峽を挟みて、アジア洲に對す。



第一圖 アジア断断面圖

地勢。舊大陸に於ては、印度半島の北境に、西より東に亘れる大山脉あり、ヒマラヤ山系といふ。其最も高き峰をエベレストと稱し、高さ二萬九千餘尺ありて世界第一の高峰なりとす。

此山脉の西端に、パミールと稱する高原あり、世界有名の高地にして、世界の屋根の名あり。これより山脉四方に分れ、東に奔るものを崑崙山脈とし、其脈支那本部に入る。

又東北に走るものを天山山脉とし、西に赴くものを、ヒンヅークーシユ山脈とす。崑崙山系の東北に、ゴビの沙漠あり。

ヒンヅークーシユ山脉の南に、イラン高原あり。アジアの北部は、大なる平原にして、其西に地球上最大なる鹹湖、裏海あり。

ヨーロッパには、洲の南部イタリー半島の北境に、高大なるアルプス山脉あり、其高峰をモン・ブランとし、高さ一萬五千八百餘尺にして、ヨーロッパ洲中の第一とす。これより東方に走るものは、バルカン山脉となり、西方に赴くものは、ピレニース山脉となりて、ピレニース半島の北境をなす。

ヨーロッパ洲の中部以北は、概して平原なり、而して、東境アジアと接する所に、ウラル山脉あり。

アフリカは、一體の高原地にして、山脉は海岸に沿ふ。

アメリカは、其西海岸に偏して大山脉ありて、北より南に走

る、北アメリカに於けるは、ロッキーマウンテンにして、南アメリカに於けるは、アンデス山系なり、此大陸は東方に低き山脈あり、中央に大平原あり、ミシシッピ河及びアマゾン河、其間を流る。ミシシッピ河の流域は、農産に富み、アマゾン河の流域には、大森林あり。

オーストラリアは、周縁高く、恰も盆の如き大陸なり、東岸には、珊瑚礁を繞らし、航海甚だ危険なり。

内部は概ね沙漠にして、所々に鹹湖あり、本陸の大部は、不毛の地なり。

河川

アジア洲。北氷洋に入るものに、オビ、エニセイ、レナの三大河あり、河水は、氷結期長きを以て、水利少し。

亞細亞河川

東に黒龍江、黄河、揚子江の三大河あり、其流域は、概ね地味肥沃なり。

南には、ブラマプートラ、ガンダス、インダス、シヤテルアラブ等の大河あり、灌溉交通の便少からず。

ヨーロッパ洲。ヴォルガ、ダニユーブ、ラインの三河最も名あり、ヴォルガ河は、ロシアの中部に發源し、南流して裏海に入る。ダニユーブ河は、源をアルプス山系に發し、東流して黒海に注ぐ。ライン河も亦アルプス山系中より發し、北西に流れ、北海に入る、三河共に水利大なり。

アフリカ洲。最も大なるは、北流するナイル河にして、本州東部の山脈中に發し、地中海に入る、年々一定の雨期ありて、河水溢れ、沿岸に沃土を止む。エジプト國は、この河の恵みに依る。

ここ大なり。

北アメリカ洲。ミシシッポイ河は本洲の中部に發源し、南流してメキシコ灣に入る。此河は世界第一の長流なり。セントローレンス河は中部の大湖より出で、東流してセントローレンス灣に入る。

南アメリカ洲。西方は、一帯の山脉、海岸に接するを以て、河川は、皆東方の大西洋に注ぐ。アマゾン河は世界第一の大河にして、沿岸に大なる森林あり。ラプラタ河は、西南に流る。其沿岸は平野、牧場頗る多し。

第二節。水界。

海及び灣。アジア洲の東北部と、北アメリカ洲との間に、ベリリング海あり、南はアリユトシアン列嶋にて限らる。千嶋の

北にオコツク海あり、樺太島を以て日本海との境をなす。此近海は、水産に富む。日本海は、我國とアジア大陸トノ間にあり。西南に下り、朝鮮海峽を出づれば、其西に黄海あり。琉球諸島の西は、支那東海にして、南は臺灣海峽を以て界とす、それより以南は、支那南海なり。

印度支那と前印度との間の海をベンガル灣といふ、其北岸は世界第一の雨多き地なり、前印度の西は、アラビア海にして、西部に深く入れば、二大灣あり、北にあるをペルシア灣といひ、南なるを紅海といふ、紅海は地球上最も熱き海にして、又珊瑚礁多し、其西端の盡くる所にスエズ運河ありて、地中海に通ず。地中海は、ユーラシアと、アフリカとの間に挟まれる内海にして、其沿海出入多し、アドリアチック海は其一部なり。

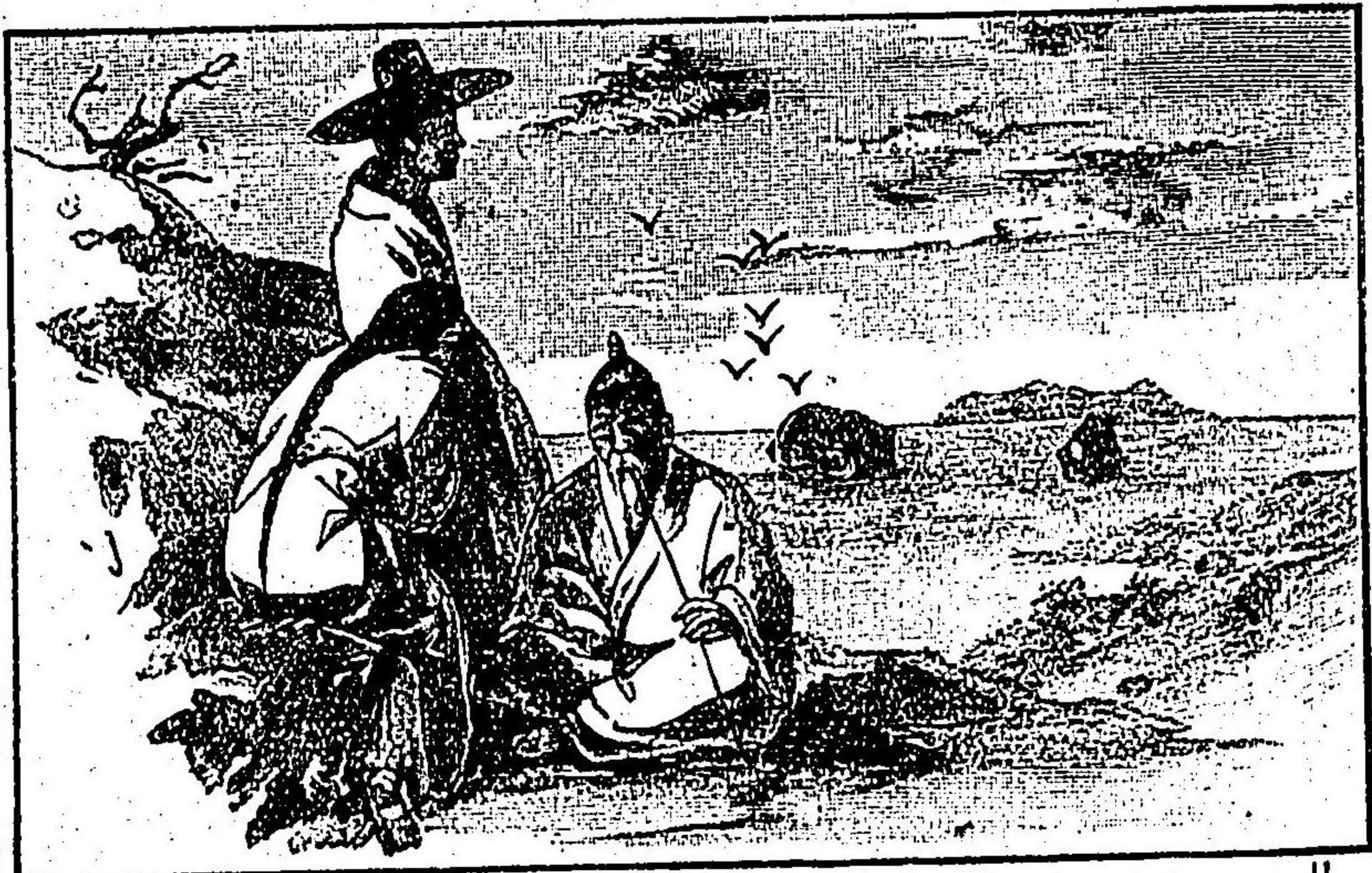
地中海の東北にあるは、黒海にして、ボスフォラス海峡によりて、地中海と相通ず、其東に裏海あり、其水甚だ鹹し。
 ヨーロッパの北部には北海あり、其東に入り込みたるは、バルチック海にして、フィンランド灣は、此海の一部なり。
 アメリカの西岸は出入少く、カリフォルニア灣稍大なり。
 東岸は屈曲稍多く、中部にカリビアン海あり、其西北は有名なるメキシコ灣にして、セントローレンス河口は、又一大灣をなす。

オーストラリアの沿岸は、出入甚だ少し。

第二章 アジア

本州の大半は、ヨーロッパ諸國の領地なり。獨立國は我國及び朝鮮、支那、シヤム、ロベルシア等の數國あるに過ぎず。

第二 圖



(朝鮮人の風俗)

朝鮮帝國 朝鮮は、其面積凡う我本州に等しく、人口凡う一千万あり。
 山脉國中を貫て南北に走り、其軸は、東方に偏し、西部は稍平かなり。
 鴨綠、圖們の二大河を以て、滿州及びシベリアと境す、島嶼は西岸に最も多く、巨文嶋は我が對馬と共に、日本海の口を扼せる要嶋なり。

氣候は大陸性を帯び、寒暑の差甚し。

物産は大豆、砂金特に名あり、又牛皮、牛骨を我國に輸出す。輸入品は、金、絹を主なるものとす。

古より夙に開けたりしが、現今國勢振はず、然れども近時我國の導によりて、稍進歩の趣あり。

首府を漢城といふ。漢江の右岸河口より凡そ八里の上流にあり、人口二十萬、市街は城壁を廻らす。我國公使館の設けあり。

仁川は漢城の西南七里の海濱にあり、釜山は我國に最も近く、元山、津は國の東岸にある開港場なり。これ等の開港場には、

本邦人の往て在留せるもの少からず。

支那帝國

アジア大陸の東南部にある大帝國にして、面積凡そ八十萬

方里あり、人口凡そ四億三千萬ありて、世界人口の四分の一を有す。

教育は舊來の法により、唯古の書籍を誦讀する事とす、然れども近來新式の諸學藝、稍行はるゝに至れり。

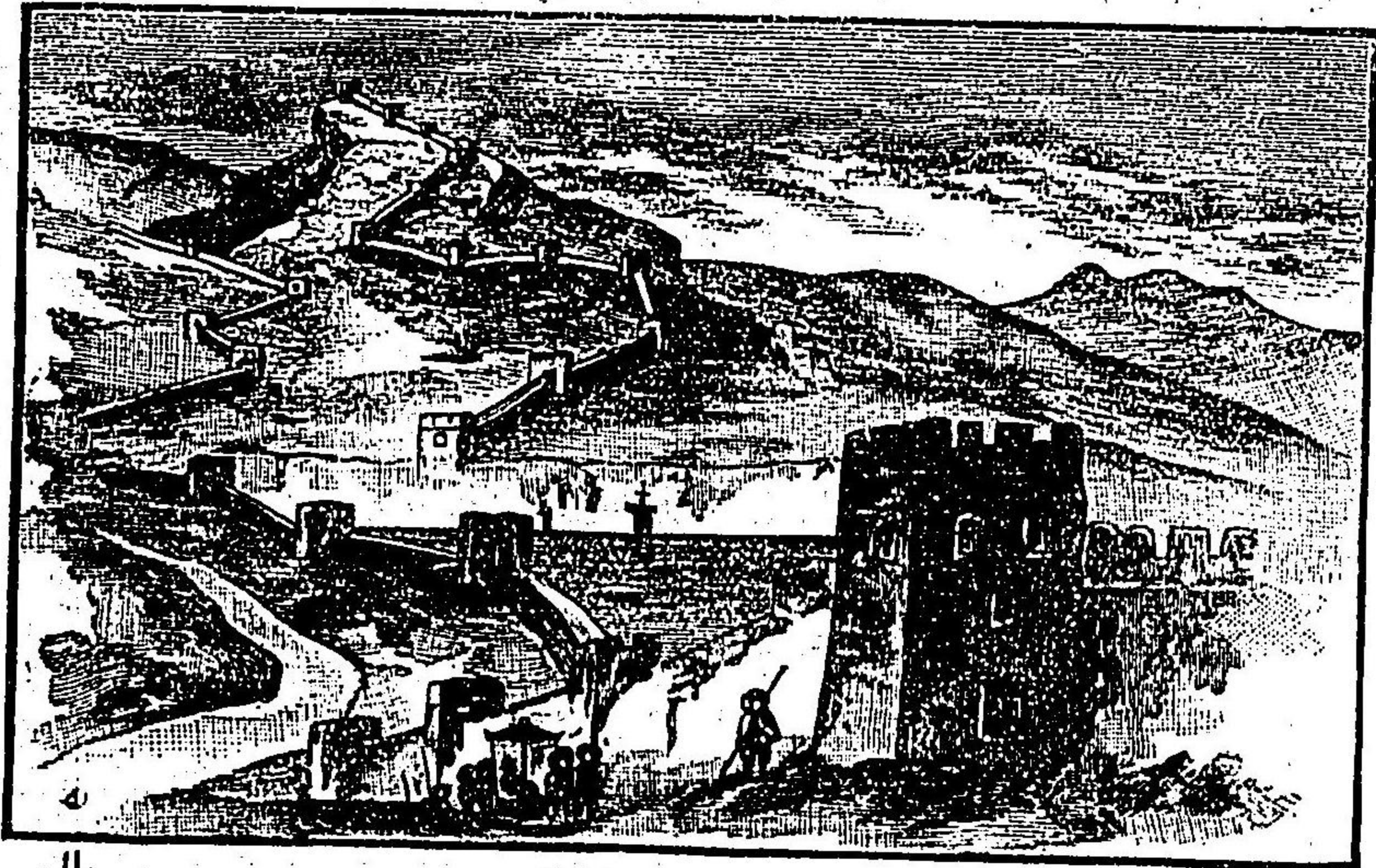
人民商業に巧にして、忍耐の性強けれども、愛國の志に乏し。政體は君主專制なり。其下に内閣あり、皇帝を佐けて政を行

ふ。

支那本部。は黃河、揚子江及び珠江の流域にして、地勢西より東に向ひて漸く低し、萬里長城によりて、蒙古及び滿州と境をなす。域内を十八省に分つ。四川省の如きは面積我國より大なり。

氣候は、南と北とに於て大なる差あり、北部は大陸性氣候を

第三圖



(萬里の城長)

帯び南部は甚だ暑くして、殆んど熱帯に類す。秋の始めには支那南海に大風起り、海岸の地に大害をなす、遂に我國に吹き來る。

首府を北京といふ、人口百五十萬あり、周圍に城壁を周らし、内城、外城に分つ、内城には皇宮及び官衙の外、我國及び諸外國の公使館あり。

天津は、北京に入るの要

路に當り、白河と大運河との會點にあり、上海は、揚子江の南岸にあり、支那の外國貿易の多くは、此港に於て行はる。漢口は、支那本部の中央にあり、揚子江と其大支流漢江との相會する所にあり、内地商業の中心なり、廣東は、珠江の北岸にあり、人口百六十萬、支那にて最も古き開港場なり。

香港は、廣東河口にある小嶋なり、阿片の亂にイギリスに與へたるものにして、東洋第一の要港と稱せらる。

産物、人民は概ね農を以て主なる業とし、米、茶、綿等を産す。生糸と茶とは、第一の輸出品にして、阿片及び綿布は、第一の輸入品なり、我國は綿花を支那より買入れ、これより製せる綿絲を支那に輸出す。又支那は鐵と石炭とに富めりといふ。

滿洲。支那本部の北にあり、長白山脈によりて朝鮮と境す、

西南に突出する半嶋部を遼東半嶋と云ふ、人民は支那本部の人に似たれども、稍質朴なり。

盛京(奉天府)は清帝祖先の廟地たるを以て有名なり、旅順口、營口等は明治廿七八年の役に其名高し。

蒙古 支那中最も北部にありて、中央のゴビ沙漠は東西に横はれり、住民は蒙古人種にして、遊牧を業とす、昔は英雄の出でしここ少からずと雖ども、今は古の氣象なし。

賣買城は、シベリアの國境に近くして貿易稍盛なり。

伊犁 蒙古の西にあり、天山山脉中央を東西に走る現今は新疆省といふ一省をなす。

西藏 世界第一の高地にして、海面上一萬尺を下る所なし、四方高山に包まれ、別に一世界をなす。

首府をラツサといふ、此國の人民は一般にラマ教を信じ、僧侶の數甚だ多く、教長の權力限りなし。

印度支那

東方一體の地は、フランスに屬し、サイゴンはその首府なり。

暹羅王國はフランス領の西に接す、首府をバンコックといふ、我國公使館の設けあり。

馬來半嶋は、最も南に突出したる半嶋にして、獨立の部とイギリス領とに分る、南端に近きシンガポールは、東西兩洋の相通ずる要所にありて、其貿易盛大なり。

印度 三角形の大半嶋にして、北はヒマラヤ山脉に限られ、南は印度洋に面す、其廣さ我國に十倍す、ガンダス河の沿岸は、即ち印度大平原なり。

第四圖



(印度人象に乗る有様)

人口凡そ三億あり、此地は釋迦の生れたる地なれども、佛教は甚だ盛ならず、イギリス王は、印度皇帝の位を兼ね、大總督を此地に置き、これを治めしむ。

産物は、阿片・藍・砂糖・茶・棉花等最も有名にして、殊に棉花は我國に輸入す。

カルカッタは、大總督駐在の地にして、ガンヂス河の三角洲上に位し、市街頗

る繁盛なり、西岸にボンベイあり、印度第一の貿易港にして、東岸のマドラスこれに次ぐ、セーロン島の西岸なるコロンボは、印度洋を航する船の泊する港なり。

イラン高原諸國

此高原に國をなすもの三あり、其一をベルチスタンとし、イギリスの領地なり、其二をアフガニスタンといふ、ベルチスタンの北にあり、此二國の西はペルシアにして、中央は一帶の沙漠なり。

アラビア

稍四角形をなせる大半嶋にして、内部は沙漠より成る、寒暑共に甚しく、馬・護謨を主要なる産物とす、土人は麤を以て常食となす。

メツカは、マホメットの生れたる地にして、メデナは其死所なり。アデンは、紅海の口にある良港にして、イギリス領なり。

アジアトルコ。

ペルシアと地中海との間にある半嶋國にして、其面積我國の五倍あり、東南はシヤテルアラブ河の流域にして、人類の早くより住みたる所なり。

首府スミルナは、地中海に臨める主要の貿易港なり、シエルサレムは、海面よりも低き、死海の北岸にある小市街なれども、基督の墓地あるを以て其名高し。

ロシア領アジア。

別ちて三となす、コーカサス、中アジア、シベリアこれなり。コーカサスは、黒海と裏海との間にあり、東部に多量の石油

を出す。

中アジアは、ヒンヅークーシユ山脉の北部にありて、北と東はシベリアに接す、土地一帯に低くして、殊に西方の裏海近傍は、地中海面より下る。

シベリアは、南は支那に接し、西はウラル山脉を以てロシアに境し、東は太平洋に、北は北氷洋に面す、土地南より北に赴くに従ひ漸く低し、氣候頗る寒冷にして、レナ河に沿へる地方は、舊大陸中最も寒き所とす。

ロシア政府は頻りにシベリアの開拓に力を盡し、本國より日本海岸に通ずる鐵道の工事中なり。

産物は獸皮・象牙・金屬等なり。
ウラジオストクは、日本海岸にある、シベリア第一の良港

にして、ロシア太平洋艦隊の根據地とす、トムスクはシベリア第一の都會にして、人口四萬五千、大學の設けあり、イルクーツクは、バイカル湖の西岸にありて、東部シベリア總督の駐在所なり。

樺太嶋は明治八年、我國より千嶋と換へたるものなり。

第三章 ヨーロッパ

ヨーロッパの諸國は、概ね完全なる獨立國なり、便宜上南部、西部、北部、東部に大別す。

南部諸國

トルコ。面積凡そ我國の半ばより小にして、人口凡そ五百萬あり、皇帝の號をサルタンといひ、回教を以て國教と定む、信者は紅き帽を冠り、寬き衣を服し、婦人は外被を垂れて面を表

さず、風俗人情ヨーロッパ諸國と異りて、アジアに似たること多し。

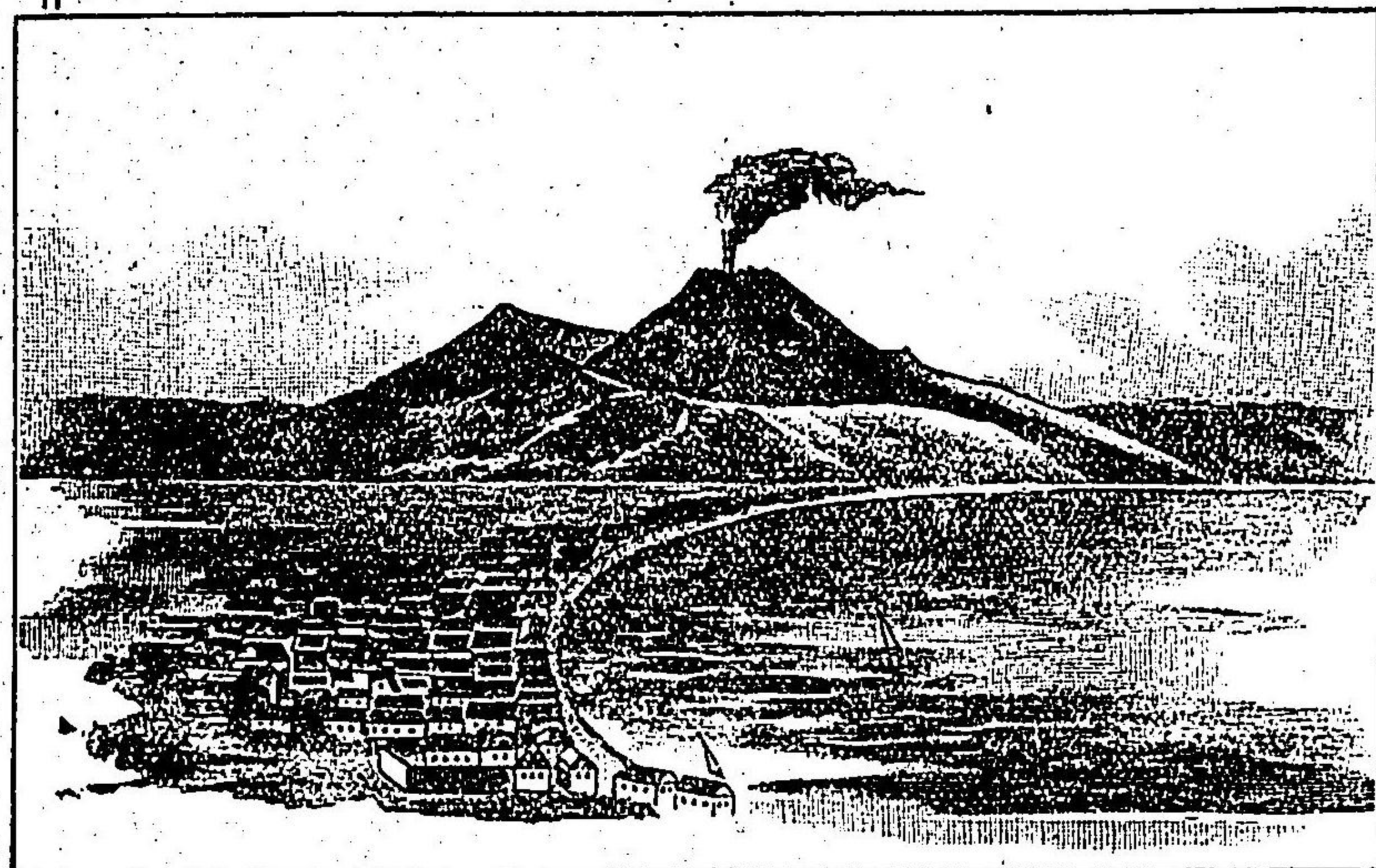
此國舊時は盛大なりしが、今は國勢大に衰へたり、首府コンスタンチノープルは、此國の要港にして、人口八十七萬あり。

ギリシヤ。トルコの南にある半嶋國にして、山岳頗る多く、平地少し、古へはヨーロッパ第一の文明國なりき、首府アゼンヌに大學校の設けあり。

イタリー。アルプス山系の南方に突出したる、長靴形の半嶋國にして、氣候温和なること、ヨーロッパ第一とす。

此國は、ギリシヤに次げる古國にして、古代の遺跡多し。
ローマは古代ローマ國の首府たりし所にして、今尙王國の

第五圖



(山火スアイヴスエヴ)

首府なり。子イプルスは、世界に名高き火山、ヴェスヴィアス山の麓にあり、イタリア第一の大都會にして、人口四十六萬あり。

ポー河の流域より夥しく穀類を産し、南部には菓物多く、又養蠶の盛んなることば、ヨーロッパ第一とす。

スペイン。フランスの南にあり、ポルチュガルを合

せて、アイベリア半島といふ國中山岳多く、空氣常に乾けるを以て不毛の地多し。マドリットは首都にして、國の中央高地にあり。

南端のジブラルタルは、地中海の口にある要所にして、イギリスに屬す、堅固なる砲臺あり。

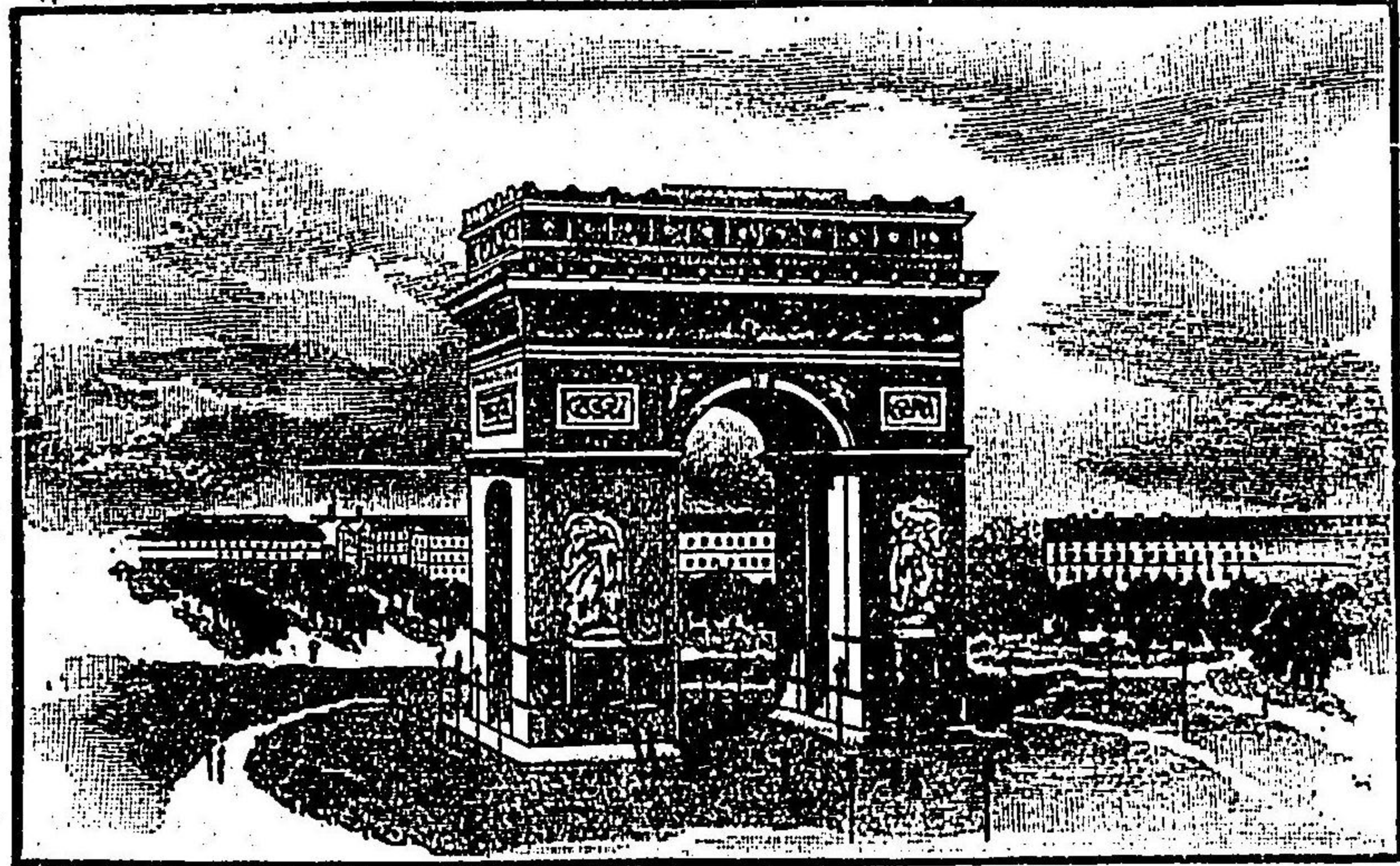
ポルチュガル。スペインの西にある王國にして、首府をリスボンといふ。

西部諸國。

フランス。アイベリア半島の北にありて、西は大西洋に面す、面積我國より少しく大なれども、人口は却て少し氣候温和にして、農業盛なり。

鐵道及び運河の數甚だ多く、道路も廣く、平かなるを以て、交

第六圖



(パリのリキ凱旋門)

通の便頗るよし。從て製造貿易の業も活潑なり。フランス人は意匠巧にして、美術品は世界第一の評あり。

我國は、フランス國に米、生絲及び絹布を輸出し、此國より、唐縮緬を輸入す。

ドイツと戦ひし以來、大に軍備の擴張を計り、陸軍は兵員五十餘萬、海軍は軍艦四百隻ありて、世界第二

に位す。

首府パリは、國の北部にあり、セーヌ河に跨り、人口二百四十萬あり、周圍に城壁を繞らし、市街最も華麗なり、住民の氣風は、風雅にして、交際に巧なり、此府は、ヨーロッパ風俗の中心にして、服裝の流行は、此府を本とす。

リヨンは、フランス第二の都會にして、絹織物業の盛なること、世界中比すべきものなし、マルセイユは、地中海の一大港にして、アフリカ及び東洋諸國との貿易頗る大なり、我國よりヨーロッパ諸國に赴く人は、多く此地より上陸す。

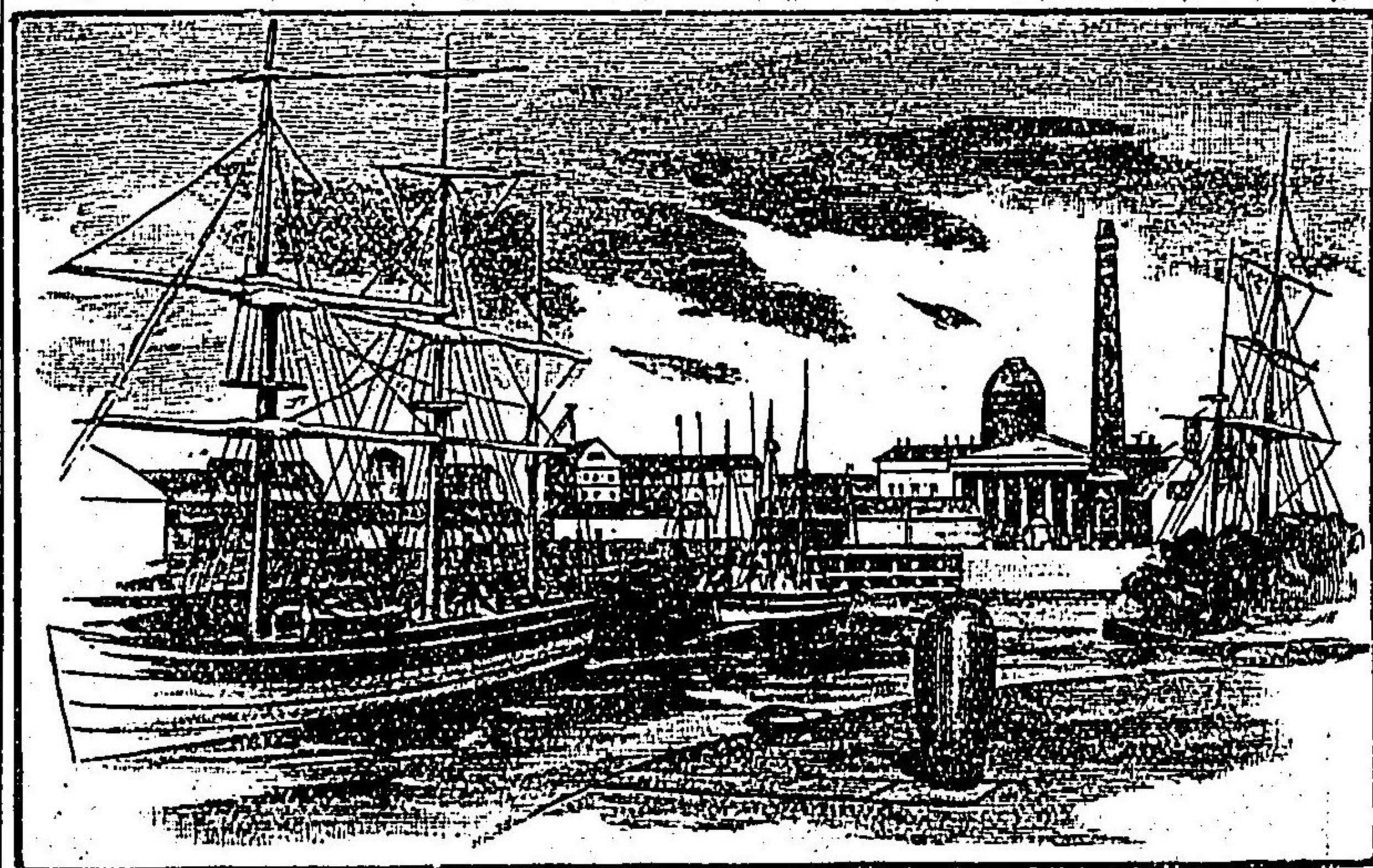
イギリス。ヨーロッパの西部にある二大嶋及び數多の群島の總名にして、東の大嶋を大ブリタインといひ、西の大嶋をアイルランドといふ。

此國の人は、氣力に富み、着實にして、舊慣を守ること強し。立憲王國にして、陸軍は兵員十五萬あり、海軍は頗る強く、軍艦は五百隻餘に達し、世界第一と稱せらる。人民農業をなすもの少ければ、食料品は輸入を仰げり、工業頗る盛にして、鐵器織物の産特に多し、斯の如く工業の盛なるは、主として鐵、石炭の産地相接して、多量に産出するを以てなり。

此國の貿易は、非常に盛大にして、此國より我國に輸入する高も亦頗る多し。

ロンドンは、首府にして、人口五百六十萬、テムズ河に跨る、商業上世界の中心にして、此府の物價の高低は、直に世界中に影響す、其位置我國の北端と、同緯度なれども、灣流のために氣

第七圖



(港ループアゲリ)

候温和なり。

リヴァプールは、此國第二の港にして、綿布を輸出すること夥し。マンチエスタは、綿布製造を以て、グラスゴーは、造船の業を以て、共に名高し。我國の軍艦此地にて製造せられたるもの少からず。

ベルギー。フランスの北に位する小國にして、人口の密なることヨーロッパ

バ第一とす、イギリスの如く鐵石炭に富み、農業も亦盛なり。
 首府ブ・ラ・ツ・セルは、市街清潔にして、小バリーの名あり、アン
 トワープは、名高き貿易港にして、日本郵船會社の汽船は、我國
 と此港との間を往來す。

オランダ。 全國總て平らかなる低原にして、海水の面より
 低き所も少からず、故に堤を築きて、海水の侵入を防ぐ。

古より商業の盛なる國にして、夙に我國と貿易をなせり。
 ハーグは、國の首府にして、我國公使館の設けあり。アムステル
 ダムは此國第一の商港にして、工業亦盛なり。

デンマルク。 ドイツの西北に突出せる半嶋及び其近傍諸
 嶋の總稱なり、土地一帶に平らかにして、農業に適し、又近海は
 魚類に富む、首府をコーペンハーゲンといふ。

ドイツ。 二十六の聯合國にして、其面積フランスより少し
 く大なり、此國は、南部は高く、北方に赴くに從ひて、漸く低し。
 鑛物に富み、鐵・石炭甚だ多し、從つて製造業盛なり。森林の制
 度最も完備し、材木の産少からず、又砂糖・小麥の産額大なり。
 軍事上有名なる國にして、殊に陸軍の強盛なること、世界に
 比ひなき程なり、海軍は、近時長足の進歩をなし、世界中の第四
 に位す。

ベルリンは、此國の首都にして、學問上に於ても有名なり。
 ハンブルグは、此國第一の要港なり。

スヰツツル。 ドイツの南、イタリーの北にある小國にして、
 面積我九州に等し、全土アルプス山系地體の中に位し、ヨーロ
 ッパ第一の高き國なり。國中耕地少く、又鑛産に乏し、然れども

第八圖



(原平のリガンハ)

國人忍耐の氣象に富み、事業に熱心にして、鐵道を開き、工業を以て國本を立つるに至れり、特に時計の製造に名あり、我國にも多く輸入す、此國は風景に富み、湖水多し、首府をベルンといふ。

オーストリア、ハンガリー。二國聯合して一國をなせるものにて、面積は我國より大なり、人種及び我

語の複雑なること甚しきを以て、國民を統一すること容易ならず。此國は海に面する所、僅かに地中海の一部なれども、ダニュープ河、國中を貫流するを以て、交通頗る便利なり。

鑛産に富み、特に岩鹽を以て名あり、地味一般に肥沃にして、ハンガリーの大平原は、特に農産に富む。

ヴァイエンナは、首府にして、ダニュープ河に臨む、有名なる醫科大學あり、ブダペストは、ハンガリーの首府にして、ダニュープ河の兩岸に跨る。

東部諸國

ロシア。ヨーロッパ州中、第一の大國にして、我國の十三倍あり、其アジア州の屬地をも合するとき、は百四十五萬方里ありて、世界第二に位せり。

全國地勢全じからず、北部の海濱は濕地にして、凍土帶と稱し、凍土帶の南方は森林帶と稱し、材木を出す、其南西の地は黒土帶といひ、穀類に適し、此國の寶庫と稱せらる、曠原地方は、裏海の北岸一帶の地にして、概ね瘠地なり。又ウラル山脉は國の東境を限り、金・白金等を出すること夥し。

セント・ペートルズブルグは、此國の首府にして、人口一百万、商業上第一の要港なれども、毎年十一月より翌年四五月までは、港口凍りて海路塞がる、クロンスタットは、五里の沖にある要港にして、堅固なる砲臺あり、モスコーは、舊都にして、國の中央にあり、西曆千八百十二年、フランスのナポレオン一世が、此國に侵入せしとき、國人自ら此府を燒きて大にこれを苦しめし所なり、ワルソーは、もとポーランド國の首府にして、オデッ

サは、此國南部の要港なり、東にセバストポールの砲臺あり。

スウイーデン、ノールウエイ。此國は、スカンヂナヴィア半島の東西に分立せる立憲王國にして、面積合して我國の二倍より小なり。

西岸は灣流の爲めに溫暖なれども、東岸は頗る寒冷なり。スウイーデンは農業、商業を以て生業とす、ノールウエイの海岸は、魚類に富み、鱈・鯡の漁獵甚だ盛なり、又商船の多きことは、イギリス及び北アメリカ合衆國の次にありて、世界第三位を占む。これ水産及び林産の多きによる。

ストックホルムは、スウイーデンの首府にして、クリスタニアは、ノールウエイの首府なり。

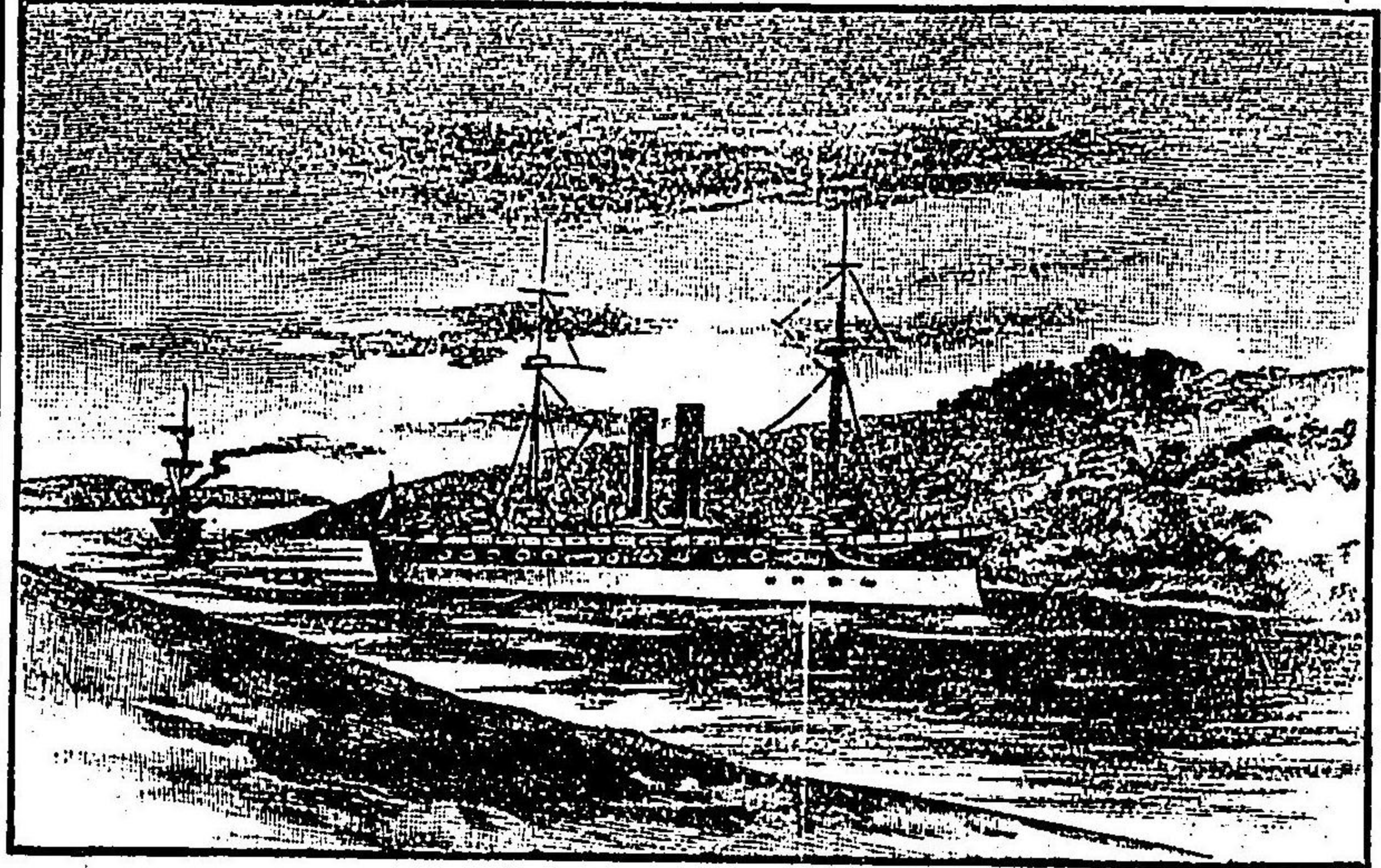
第四章。アフリカ。

アフリカの土地は、大抵ヨーロッパ諸國の殖民地又は屬地となりたれども、其境界未だ明かに定まらざるもの多し、今左に主要なる二三の土地を記すべし。

地中海沿岸にモロッコ、アルジェリア、チュニス、トリポリ、エジプトの五國あり。アルジェリアは、フランスの屬國なり、氣候溫和にして、ヨーロッパ人中、冬季寒を避けて、此地に來り遊ぶもの多し。

エジプト。 は、有名なる古國にして、今は名義上トルコの屬國なり、財政は、イギリスの監督を受く。ナイル河、國中を貫き流れ、河口の三角洲は、大にして肥沃なり、首府をカイロといふ。ナイル河の沿岸にあり、アレキサンドリアは、地中海岸の要港にして、貿易盛んなり、金字塔、獅身男面の像等古代の遺跡は、河

第九圖



スエズ運河ト富士艦

の左岸にあり。

スエズ運河は、フランス人レセップ氏の開鑿せし所にして、長さ三十六里、航通するに十餘時間を要す。

東部 アフリカは、往々獨立の酋長國あれども、大抵イギリス、フランス、ドイツ、ポルチユガルの領地なり。マダガスカル嶋は、全土フランス領なり、ナイル河の水源湖水多き地方は、東部アフリカに屬す。

南部アフリカ中最も大切なるは喜望峰殖民地なり。アフリカの最南に位し、土地牧畜に適し、又金及び金剛石を産するところ夥し、イギリスの最も有用なる屬地の一なり。

カラハリ沙漠は、南部アフリカの中にあり。

西部アフリカは、多くヨーロッパ諸國の殖民地に分れ、又コングー自由國あり。

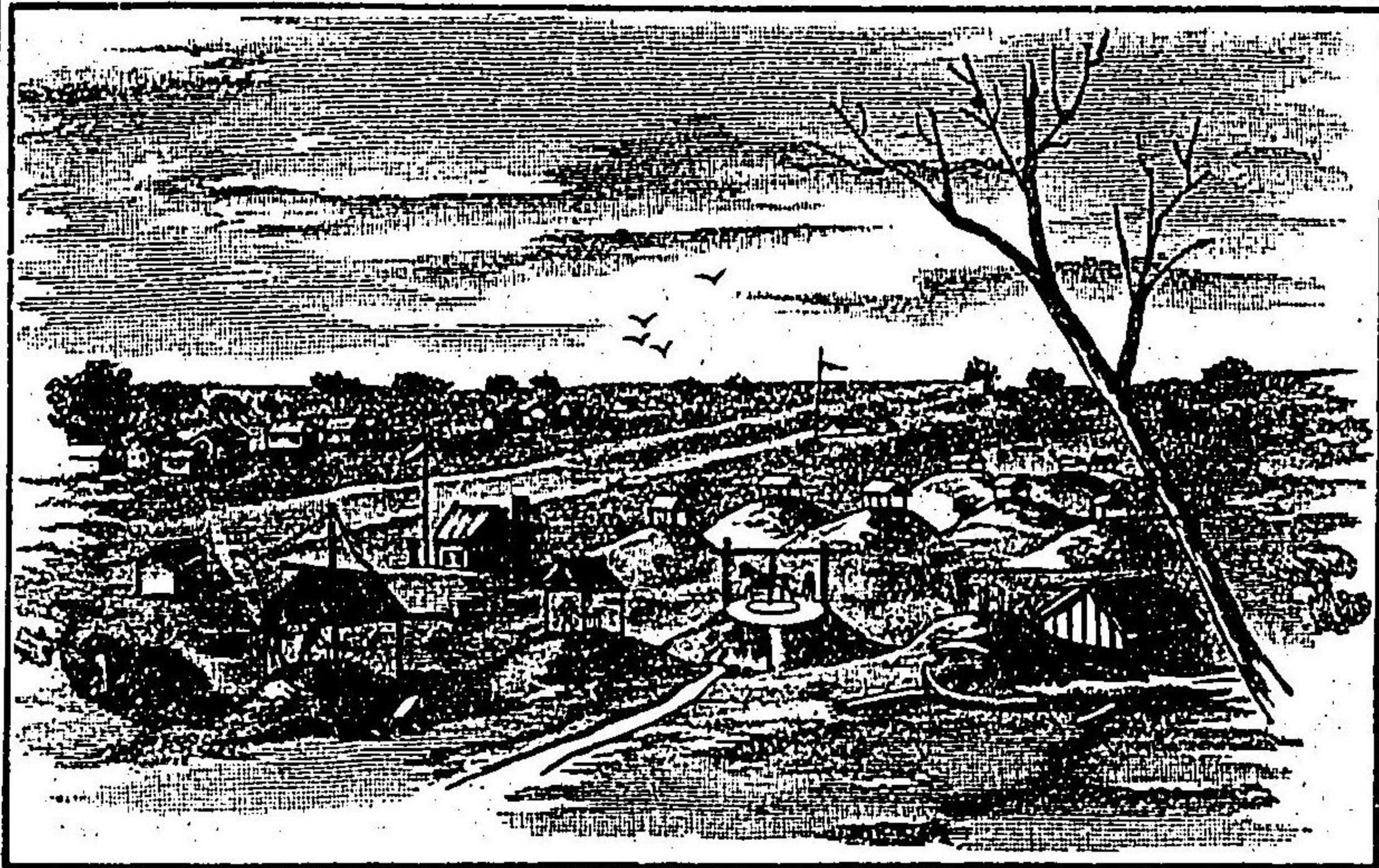
スーダンは、中部アフリカの大部を占め、サハラ沙漠の南にあり、サハラはスーダンの北にあり、世界第一の大沙漠なれども、東部には所々に泉地ありて、人類の生活に適す。

アフリカの西岸には、カナリー、セントヘレナ等の諸嶋あり。

第五章。オセアニア。

南太平洋中に散在する諸嶋及びオーストラリア嶋を合稱

第十圖



オーストラリアの金田

して、オセアニア洲といふ。オーストラリア島は、甚だ大なるを以て、或はこれを大陸と稱することあり、其大さヨーロッパ洲に次ぐ、地勢恰も大なる盆の如く、東岸に山脉あり、内地は概ね沙漠なり、牧畜の業も盛大にして、小麥及び金の産額夥し、此土地はイギリス領なり。

メルボルン港は、小麥・羊

毛を輸出し、シドニーも亦貿易繁盛なる良港なり。これ等の港と、我國との間には、我日本郵船會社汽船の往復あり。

タスマニア及びニュージーランドの兩嶋は、地味肥沃、氣候溫和にして、次第に繁盛なり。共にイギリス領なり。

マレーシア群嶋は、オーストラリア島の北にあり、大抵火山質にして、オランダ領最も多し、産物は、金・銀・寶石にして、又丁子の本國と稱せらる。

ポリネシア群嶋とは、オーストラリア島の東北より、アメリカの間にある、數多の嶋嶼の總稱にして、此内ニューカレドニア島は、フランスに屬し、ニツケルの産地なるを以て、我國人の出稼するもの多し。

サントウイツチ諸嶋は、悉く火山島にして、もと共和國なり

しも近時北アメリカ合衆國に屬し、氣候溫和、産物豊かなるを以て、我國より移住せるもの殆んど三萬に達し、首府ホノルル港は、オアフ島にあり、日本郵船會社のアメリカ行の船は、此に寄るを常とす。

此他無數の島嶼は、或は火山島、或は珊瑚島にして、其火山脈は、我富士火山脈に連れるものあり。

第六章。北アメリカ。

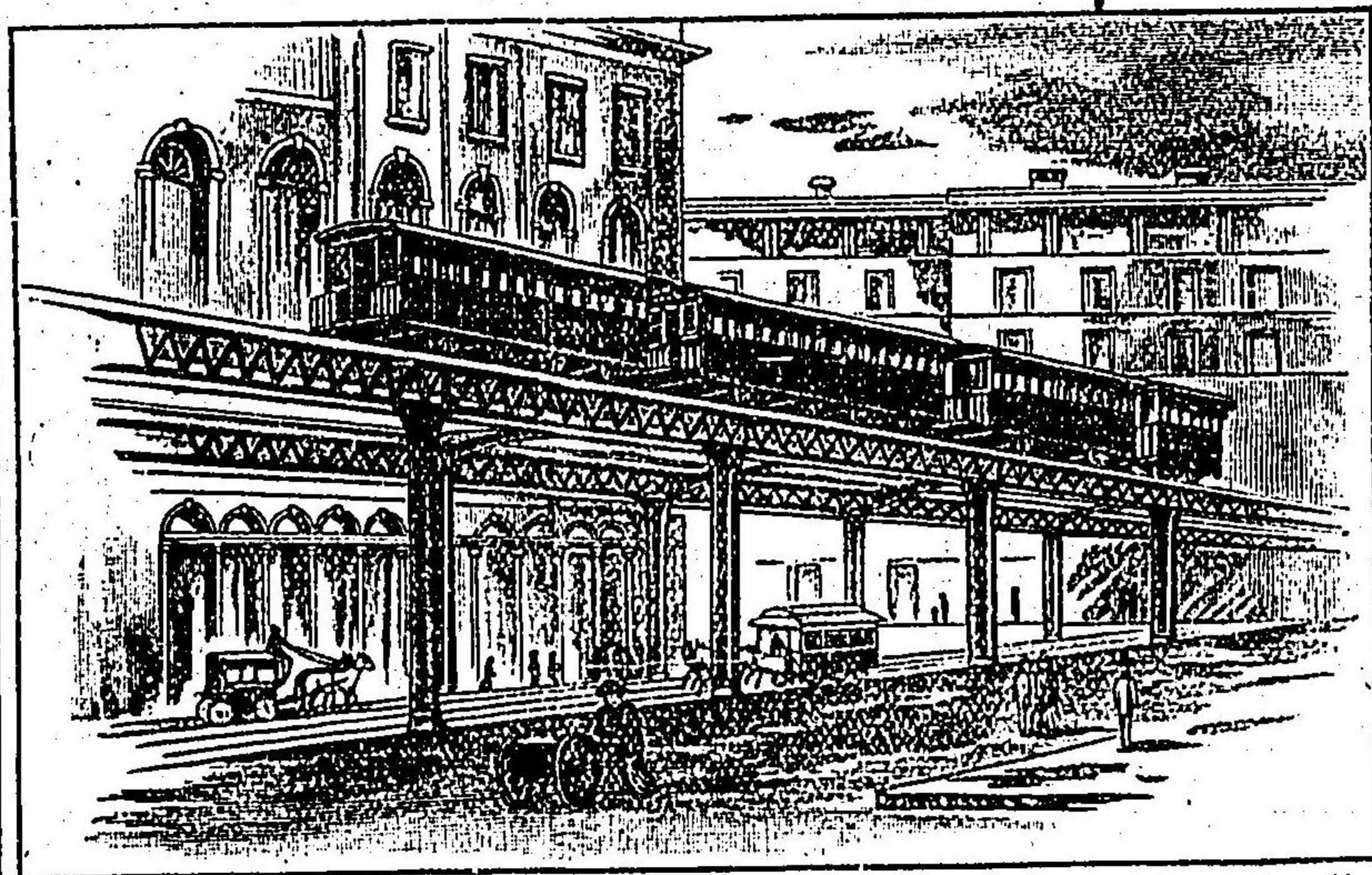
本州は、グリーンランド、イギリス領アメリカ、北アメリカ合衆國、メキシコ、中央アメリカ及び西印度諸嶋の六部に分つ。グリーンランドは、デンマルクに屬し、其大部分は氷雪にて掩はるを以て、南部の海岸の外、人生に適せず、人口一萬あり、漁業を事とす。

イギリス領アメリカ 分ちて、カナダ及びニューフオンド
 ランドの二とす、カナダは、西部、大西洋に面する所に、ロッキ
 の大山脈ありて、東北に進むに従ひ低平なり、其面積ヨーロッ
 パ州に等しけれども、北部は寒冷なるを以て、住民少し、人口通
 じて僅かに五百萬人に過ぎず、物産は材木・金屬・小麥等にして、
 近時商業大に振ひ我國よりも盛んに茶を輸入す。

モントリールは、カナダ第一の大都にして、セントローレン
 ス河の近傍にあり、首府をオツタワといふ、モントリールの西
 にあり、ヴァンクーヴァー港は、西岸の良港にして、カナダ大平
 洋鐵道の始めとす。

ニューフオンドランドは、セントローレンス灣の口にある
 大嶋なり、海岸は霧深けれども、鱈の漁獲世界第一と稱せら

第十圖



大ニューヨーク高架鐵道

る。

北アメリカ合衆國

カ

ナダの南にありて面積我
 國の二十倍あり、西方のロ
 ッキー大山脈及び東部の
 アレガニー山脈は、南北に
 走り、其間ミシシッピ
 河流域の地は、土地平坦に
 して、穀物の産夥し、此國は
 共和政體なり。

ミシシッピ河の谷に、
 廣大なる鐵山及び炭田あ

第二十圖



布 瀑 ラ ガ ア イ ナ

りて、鐵と石炭との多きこと、イギリスニ匹敵す、東部には石油坑あり、カリホルニアに金・銀山あり、農業は頗る盛にして、多く小麥を産し、棉花・砂糖・煙草は多く南部より出づ、東部は工業盛にして綿布・金屬の製作大なり、外國との貿易も頗る盛大にして、我國より此國に輸出する高も大なり。

ワシントン は 首府 に し

て、東海岸にあり、大ニューヨークは、ワシントンの北にあり、人口三百十萬、此地は世界屈指の大港にして、工業も亦頗る盛なり、
 フイラデルフィアは、大ニューヨークの南にある要港なり、
 シカゴは、ミシガン湖の岸にあり、穀物・鹽肉の大市場なり。
 サンフランシスコは、太平洋第一の要港にして、其北方にシヤートル、タコマ等の良港あり、我領事館ありて我國との關係非常に密接なり。
 アラスカは、イギリス領アメリカの西北にありて、北アメリカ合衆國に屬す。
 メキシコ。ロッキー山脈の餘派を受け、土地一般に高し、面積は略我國の五倍あり、政體は北アメリカ合衆國に同じ、此國は銀及び金に富み、又玉蜀黍は國人の重なる食物なり。

首府メキシコは海面六千餘尺のところでありて、殆んど國の中央に位す、本邦公使館の設けあり。

中央アメリカの區域は、五つの共和國と、一のイギリス領とに分れしが、今は五國合して一の聯合共和國をなせり。

西印度諸島 煙草・砂糖を産出すること甚だ多し、此諸島は大抵ヨーロッパ諸國に分屬す、此中最大なるキューバ島は、スペイン領なりしが、此島内亂のため、北アメリカ合衆國と、スペインとの間に戦を交へ、遂に合衆國の領地となれり。

第七章。南アメリカ。

此洲に於てギアナを除けば、他は皆獨立の共和國にして、其數十あり。

● 北部の諸國

コロンビア。パナマ地峽によりて、北アメリカに連る。

ヴェネジエラ。コロンビアの東にあり、オリノコ河西より來り、國內を貫流す、沿岸は大なる平原なり。

ギアナ。イギリス、フランス、オランダの三國に分屬す。

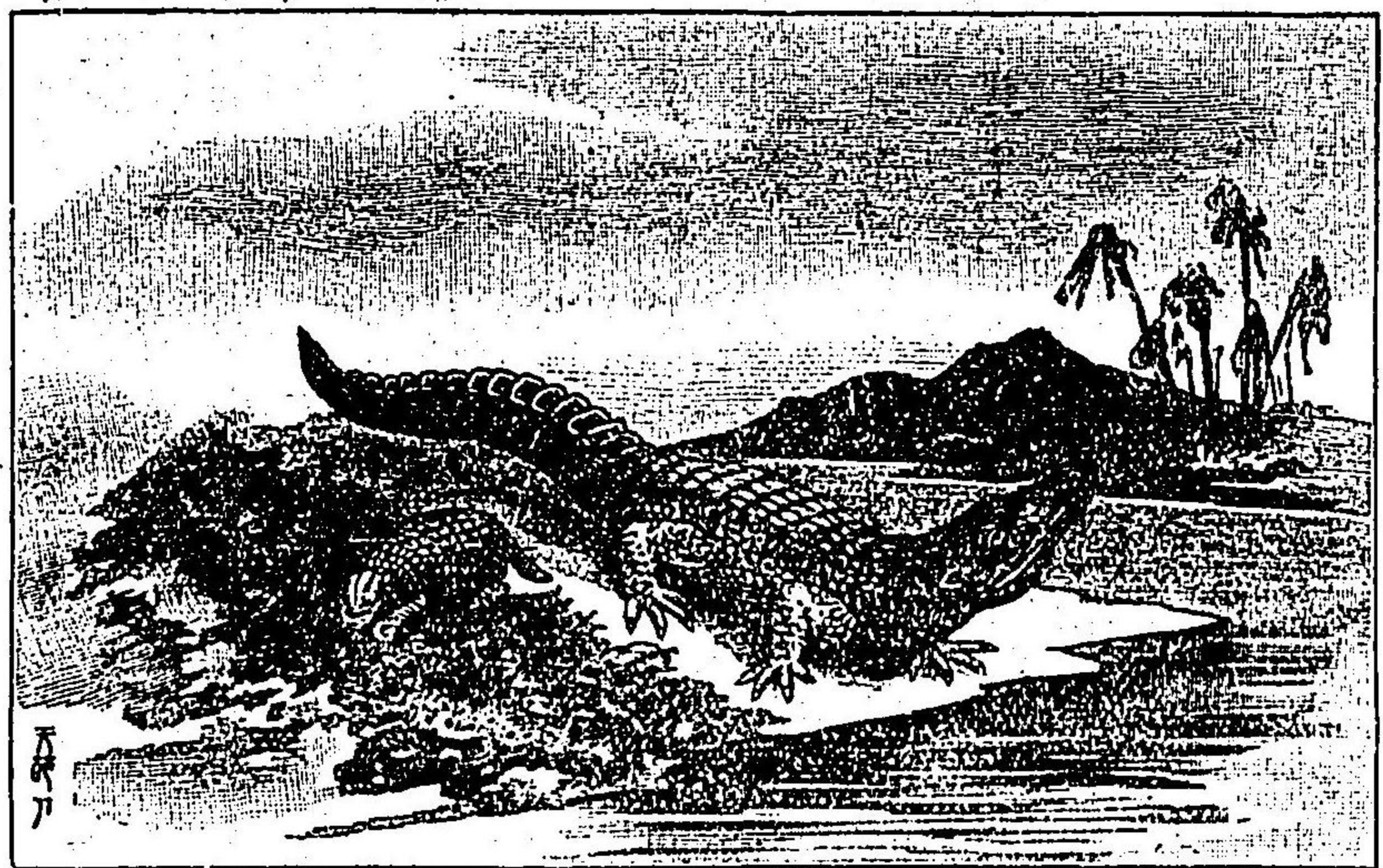
● 西部海岸の諸國

エクアドル。赤道直下にあれども、高原なるを以て氣候甚だ炎熱ならず、首府をキートンといふ、海面上九千五百尺の高所にあり。

ペルー。アンデス山脉は、西部を走り、アマゾン河は、東部を流る、地勢高く、氣候温和なり、首府をリマといふ、我國の條約國なり。

チリ。世界中最も細長き國にして、アンデス山脉は國の

第三十圖



アラウカノ鱷

中央を南北に走る、首府を
サンチアゴといふ。

東部の諸國

アルジェンチーン。國

中平野多く、肥沃の地少
らず、人民は牧畜を以て生
業とす、首府をビエノスア
イレと云ふ、本州第一の
大府とす。

ウルガイ。本州の小國

にして、首府をモンテビデオ
といふ、ラプラタ河の口

にある要港なり。

ブラジル 面積北アメリカ合衆國に次ぐ、世界第一の大河、

アマゾン河は、國中を貫流し、大西洋に入る、沿岸には大森林あり、物産は珈琲を第一とす、其他砂糖、綿花を始め、金剛石、金等の
鑛産あり、リオ、ド、ヂャネーロ港は、人口五十萬、此國の首府なり。

内部の諸國

ボリヴェア、ブラジルの西南にあり、幾那皮を産す。

パラガイ。ブラジルの南にある小國にして、煙草及び茶を
産す。

第二篇。地理總論。

第一章。緒論。

第一節。地理學の定義。

地理學は地球の表面に於ける諸種の事柄を研究する學なり。

第二節。地理學の區分。

地理學を分て天文地理、地文地理及び人文地理となす。

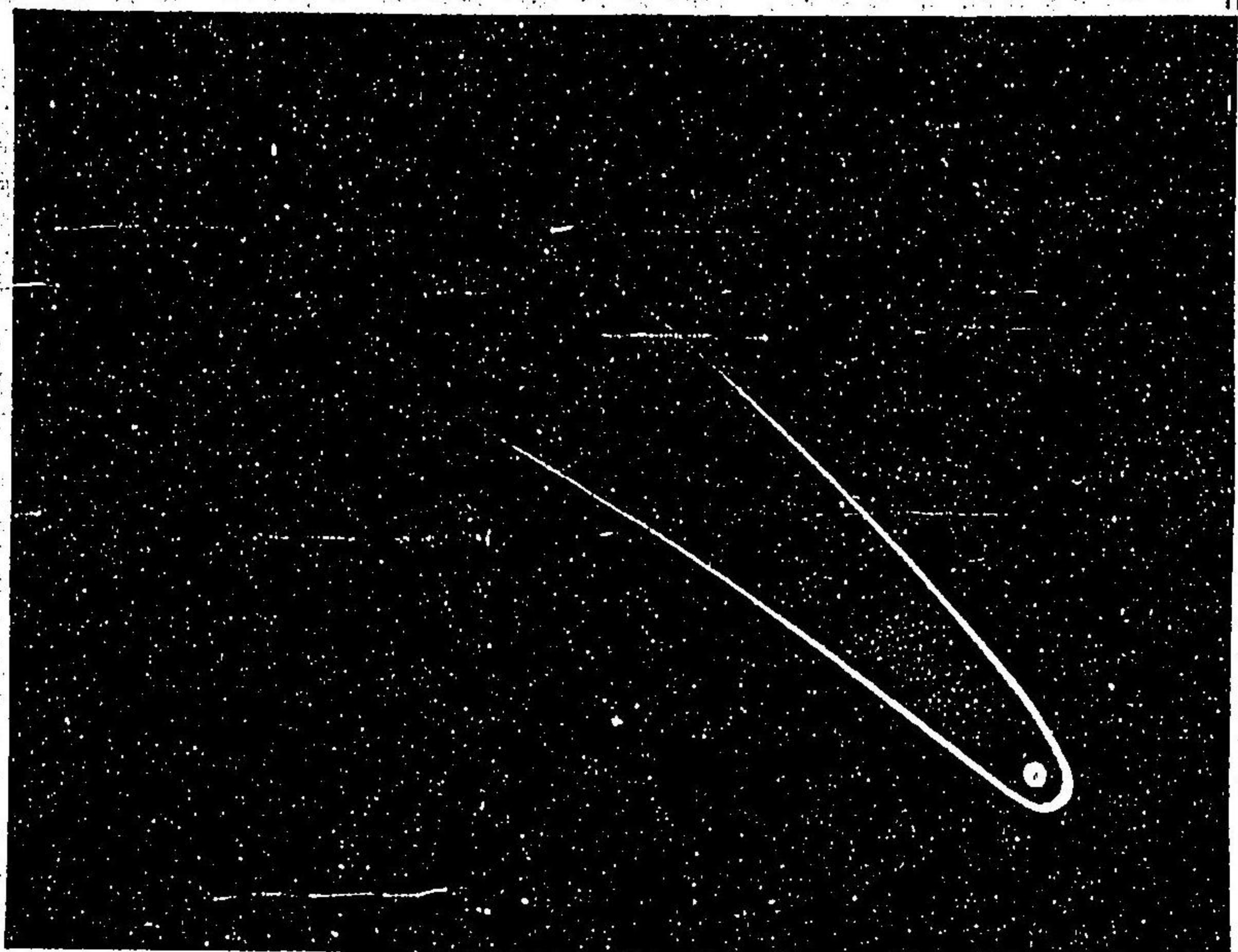
第二章。天文地理。

第一節。星の區分。

天體に數種あり。恒星、遊星、衛星、彗星及び流星等これなり。

恒星。 天上無數の星は、大抵この種類に屬す。この星は、自ら光と熱とを發し、常に一所にありて、其位置を變ぜるものなり。

第十四圖



彗星

太陽は一の恒星なり。

遊星。 恒星の周

圍を繞る天體にし

て、自ら光を發せず

して、これを其中心

體たる恒星に仰ぐ

ものを云ふ。太陽系

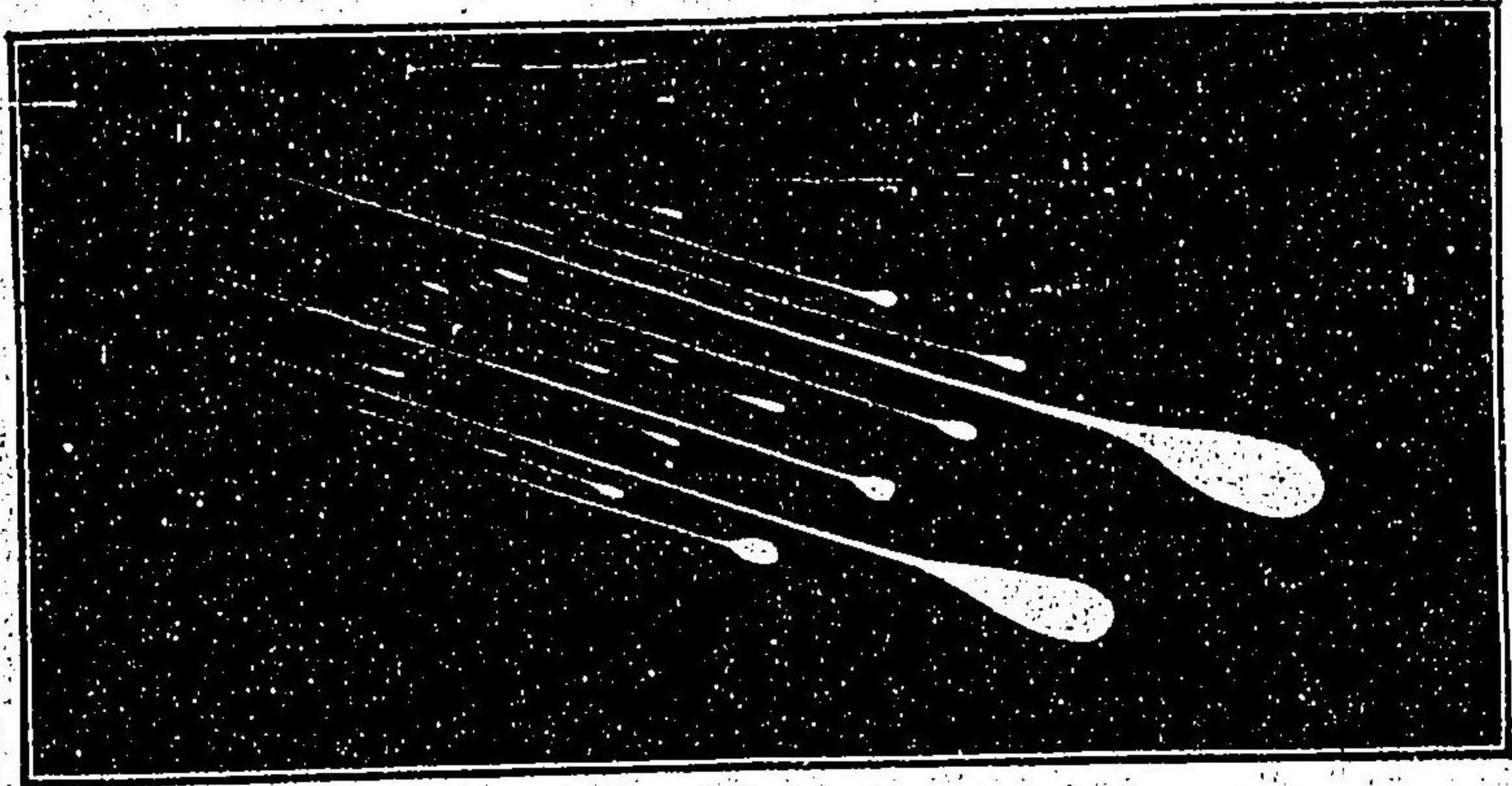
統中の重なる遊星

を擧ぐれば、水星・金

星・地球・火星・土星・木

星・天王星・海王星こ

第五十圖



流星

れなり。

衛星 その主たる遊星の周りを回轉するものにして、太陰は地球の衛星なり。

彗星 長き橢圓形の軌道により、太陽の周邊を回轉するものにて、多くは長大の光を引く、これを尾と稱す。

流星 太陽を回轉する所の小天體なり、その運行中、地球の空氣に觸れて、摩擦するときは光を發し、遂に地上に

落ち來ることあり、これを隕石と云ふ。

第二節 太陽系統

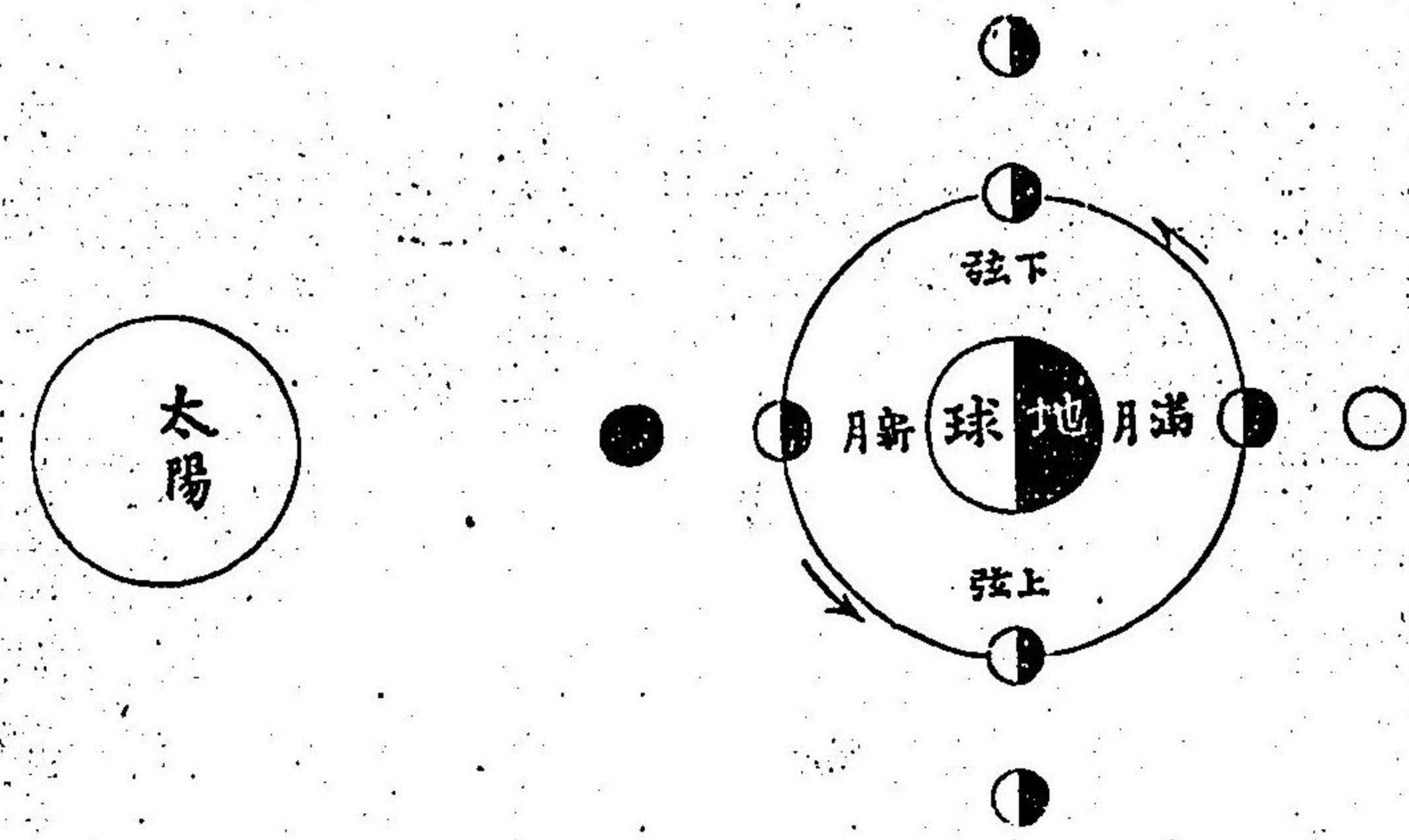
太陽及びその周圍を運行する諸天體を總稱して、太陽系統といふ、この太陽系統の中、諸遊星の大小は、別圖に示す如し。
引力 物互に相引く力あり、これを引力といふ、諸の遊星が太陽の周りを回るも、亦海水に潮汐あるも、皆天體の引力による。

第三節 太陽

太陽の直徑は、凡そ三十五萬里にして、その周圍は、殆んど百十萬里なれば、一時間十里を走る瀛車にても、太陽を一周するには、十二年餘を要す。

又地球よりの距離は、凡そ三千八百萬里あれば、一時間十里

圖七十第



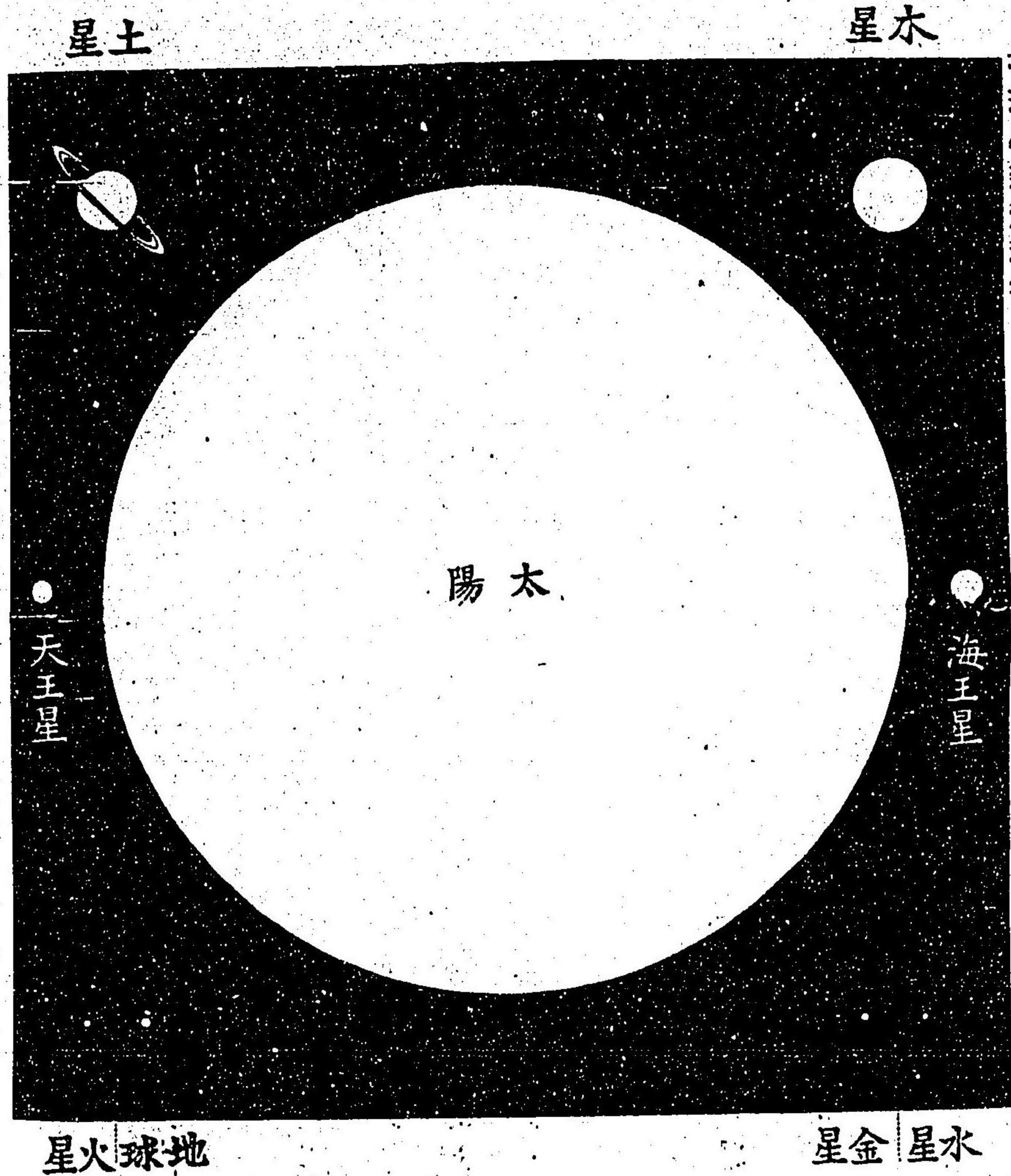
月滿及月新

を走る瀛車にても、これに達する
 には、凡そ四百八十年を費やさざ
 るべからず、うの遠きこと想ふべ
 し。

第四節 太陰。
 太陰の盈^{チヨウ}に注意するとき、
 其の地球を一周する時間を知る
 を得べし。即ち二十九日餘にして
 我が地球を一周す、太陰は、自ら光
 を發せず、太陽の光を受けて輝く
 ものなり。

新月。太陽と地球との間に、太

圖六十第



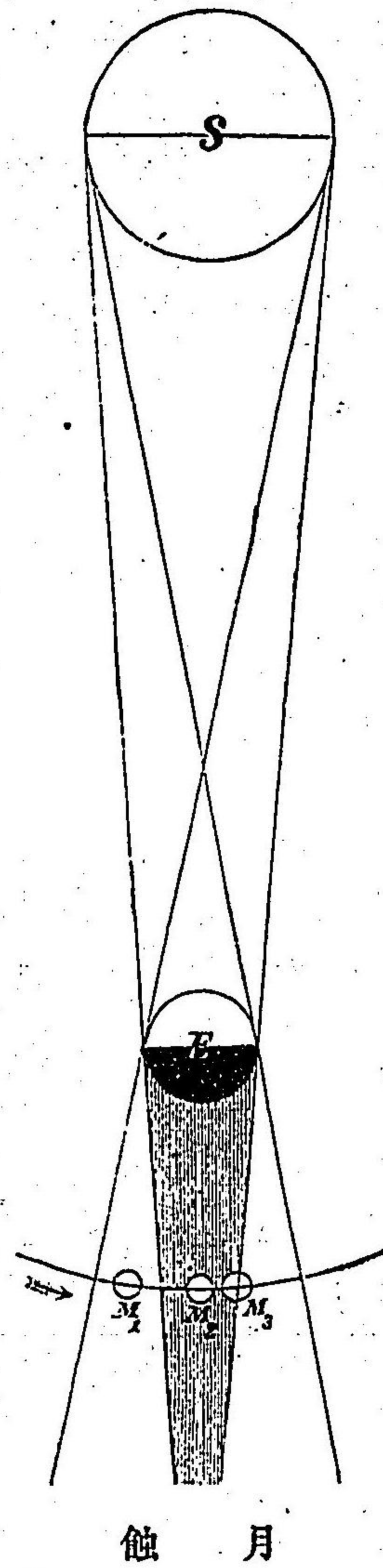
較比ノ星遊諸及陽太

陰來るときは、地球に對し、裏面の暗き所を示す、この時吾人は、太陰を見ることなし、これを新月といふ。

満月。 新月の位置より進みて、太陰が地球の背面に至れば、地球に對し、輝ける全面を表はす、これを満月といふ。

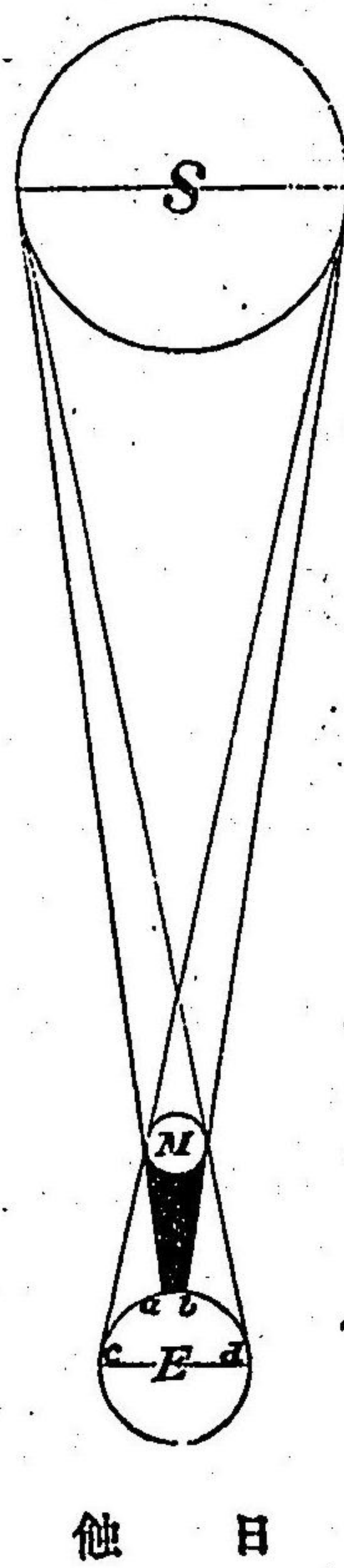
日蝕及月蝕。 太陰は、地球を周るに當り、太陽と地球との間

圖八十第



に來ることあり、この時太陽は、太陰のために掩はれて、見へざることあり、これを日蝕といふ。

圖九十第

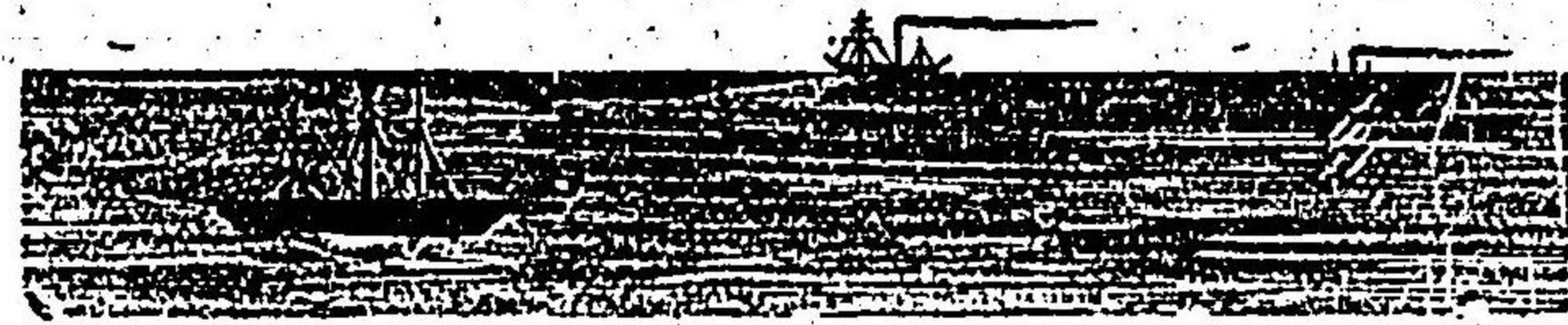


これに反し、地球が太陰と太陽との間に挟まれ、地球の影、太陰を掩ふことあり、これを月蝕といふ。

第五節。地球の形。

地球の形。 今廣き原野に立ちて、四方を眺むれば、天と地と相接するが如くなるを見るべし。この天地相接するが如く、見ゆる所を連ぬれば、圓き輪をなすべし、これを地平線といふ。

圖 十 二 第



ル見ヲ船船リヨ岸海

圖 一 十 二 第



曲彎ノ面地ト見隠ノ船船

第六節 線及度

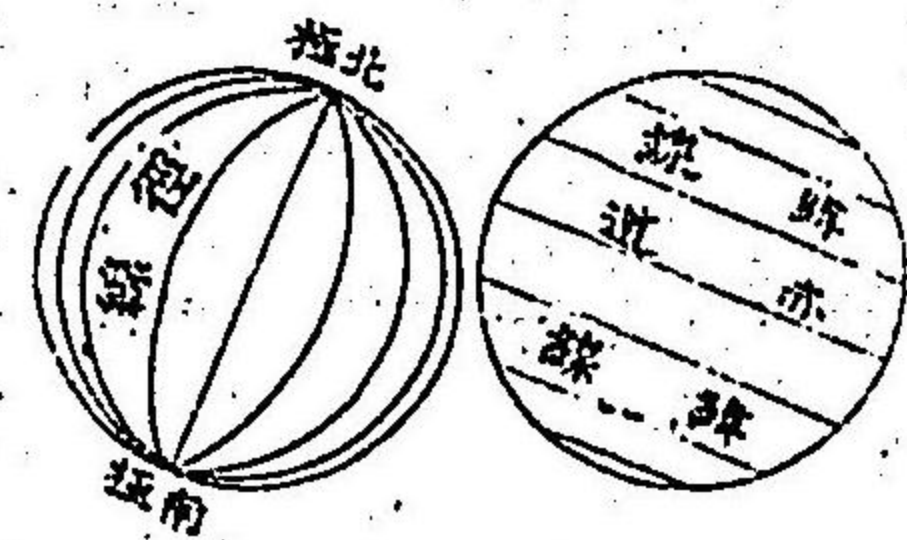
地球上の方角及び距離を定むるために、假りに線を設く、こ

地平線は、見る人の位置、高ければ遠く見へ、低ければ近し。

又港に入らんとする船を見るに、始めは、上部のみ見へ、漸く近づけば、その全體を見得るも、亦この理による。

其他、月蝕のとき、地球の影の、月面に映るを見るに、其影圓きも亦この證なり。

圖 二 十 二 第



線經及線緯

れを經線及び緯線といふ。

緯線 地球を南北に等しく二分する線を赤道といふ。この

赤道と相並んで、地球を東西に一周する線を緯線といひ、緯線と緯線との間を緯度とす。緯度は赤道を以て零度とし、次第に南北に數ふ、各々九十度とす。

赤道より南北、各々二十三度半の處に、東西に一線を畫し、北にあるを北回歸線といひ、南にあるを南回歸線とい

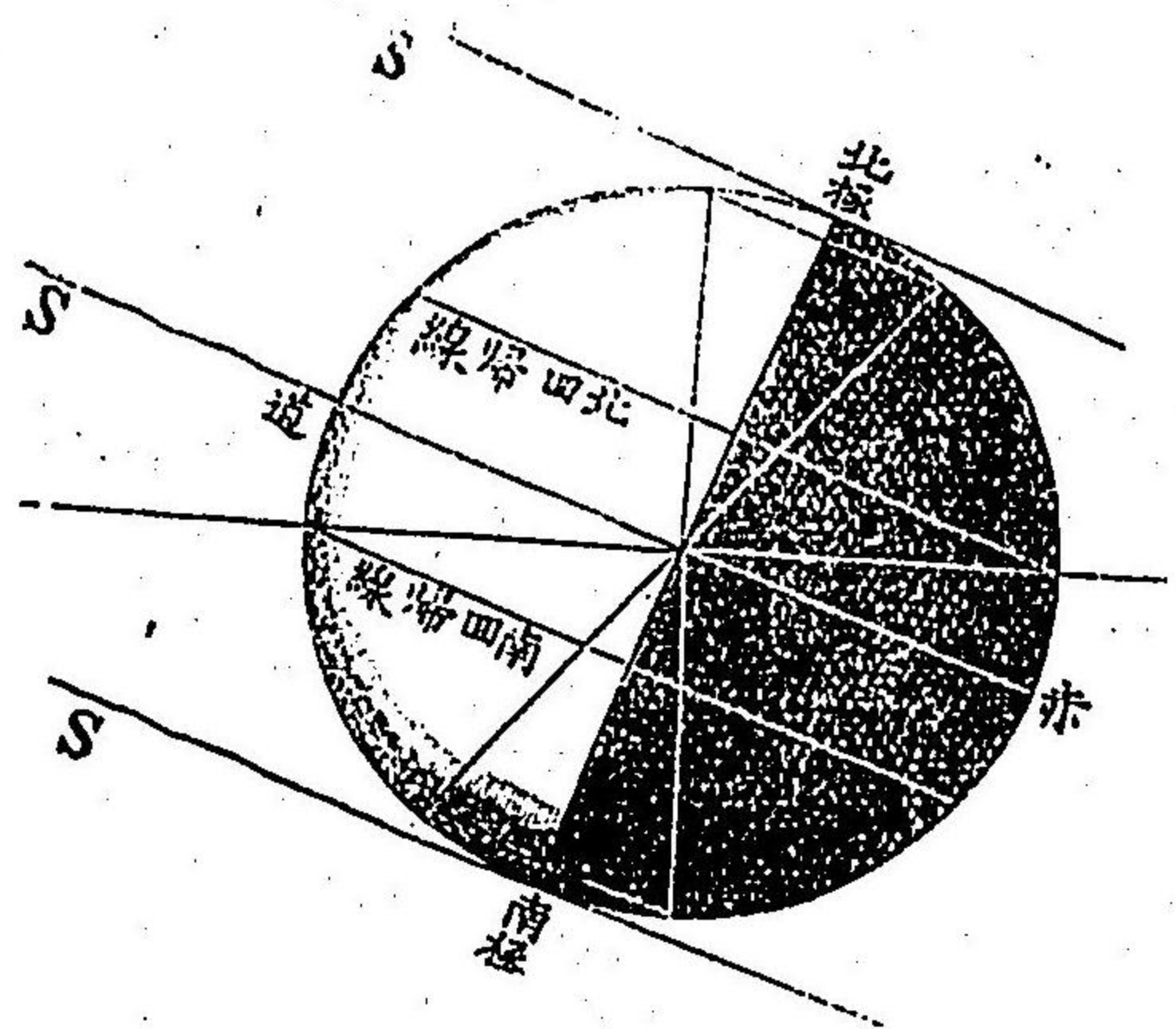
ふ。又南北の兩極より、各二十三度半の處に、赤道と並行する一

線を引き、南なるを南極、北なるを北極といふ。
經線 地球の兩極を通じ、南北に引きたる線を經線といふ、各經線の間を經度とし、地球の周圍を三百六十度に分つ。地球は二十四時間に、經度三百六十度を一周す、故に若し東西兩地の距離十五度なるときは、時刻に一時間の差あり。經線は、又子午線といふ、太陽がこの子午線の上に直射するときは、凡そ其地の正午なり。
 緯度は、赤道を基として南北に數へ、經度は現今多くはイギリス國のグリニツチ天文臺を本として、これを數ふ。我が國にてもこれを用ふ。
 經度を算するには、其基とする線より東西に數ふ。

第七節 自轉及び公轉

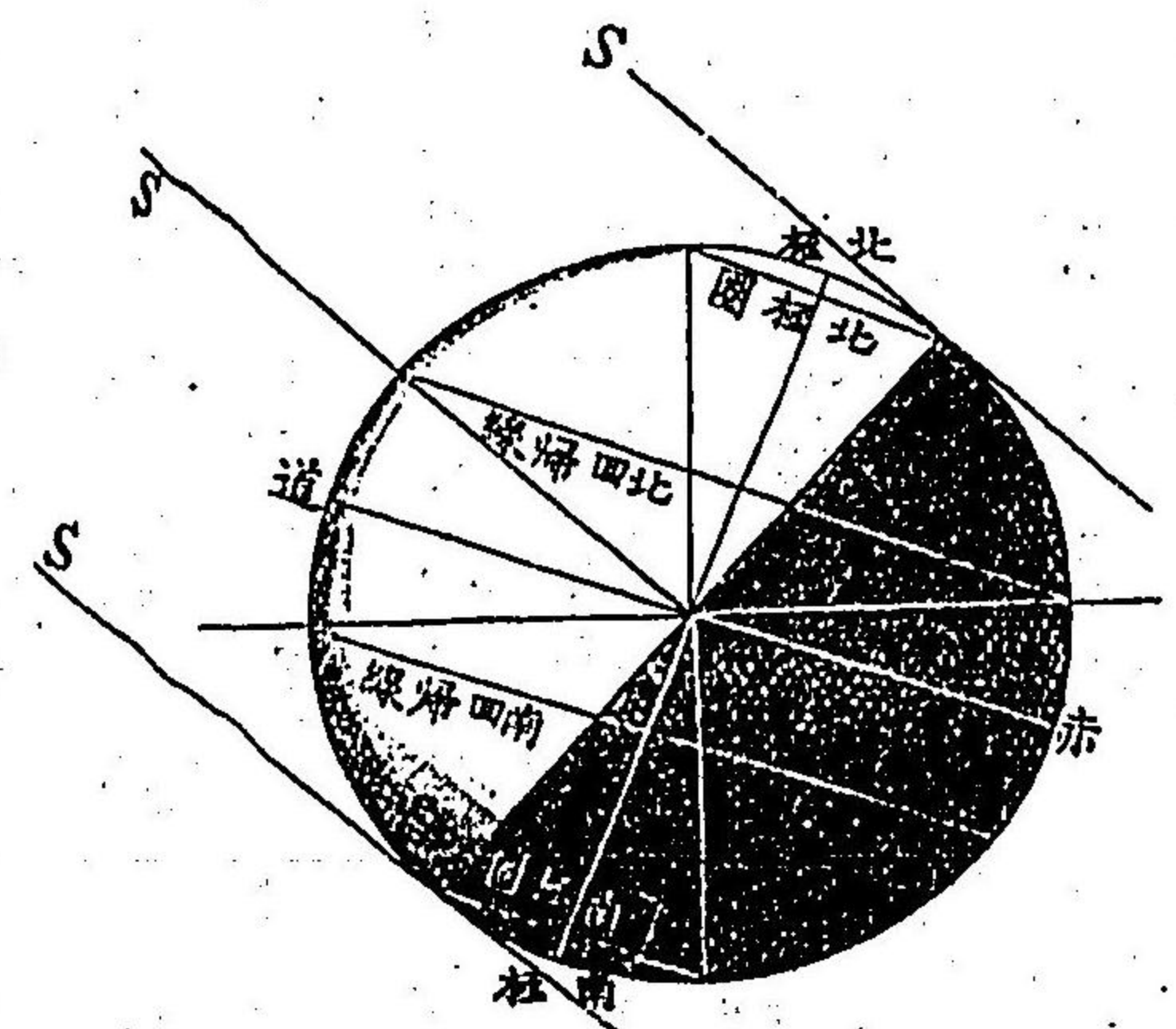
自轉及び晝夜 地球は、毎日西より東に向ひて、一回其の軸の周りを轉ず。故に半面は、太陽に向ひて晝となり、半面は、これに背きて夜となる。

圖三十二第



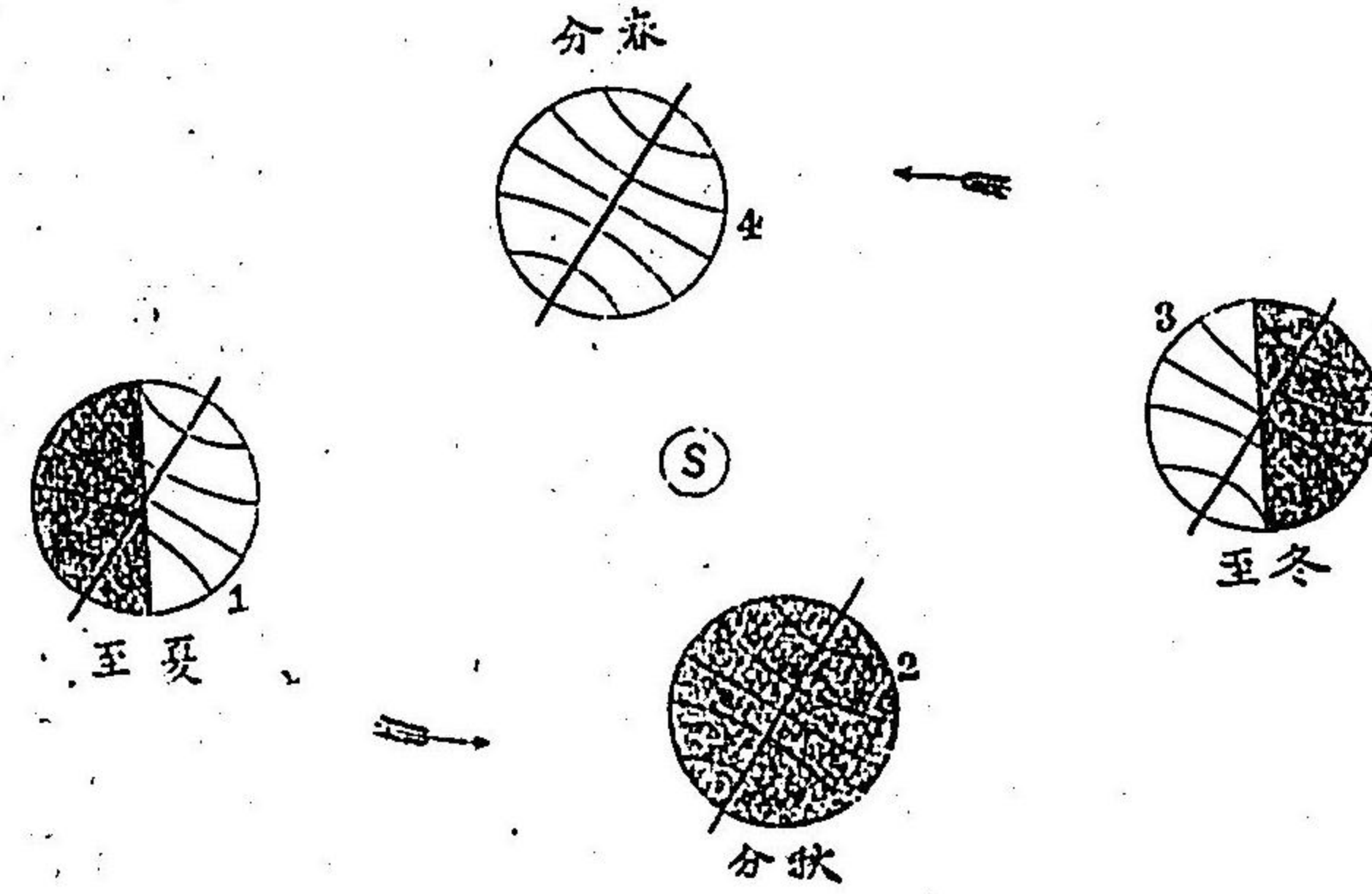
圖ス示ヲ短長ノ晝夜時ノ分秋春

圖四十二第



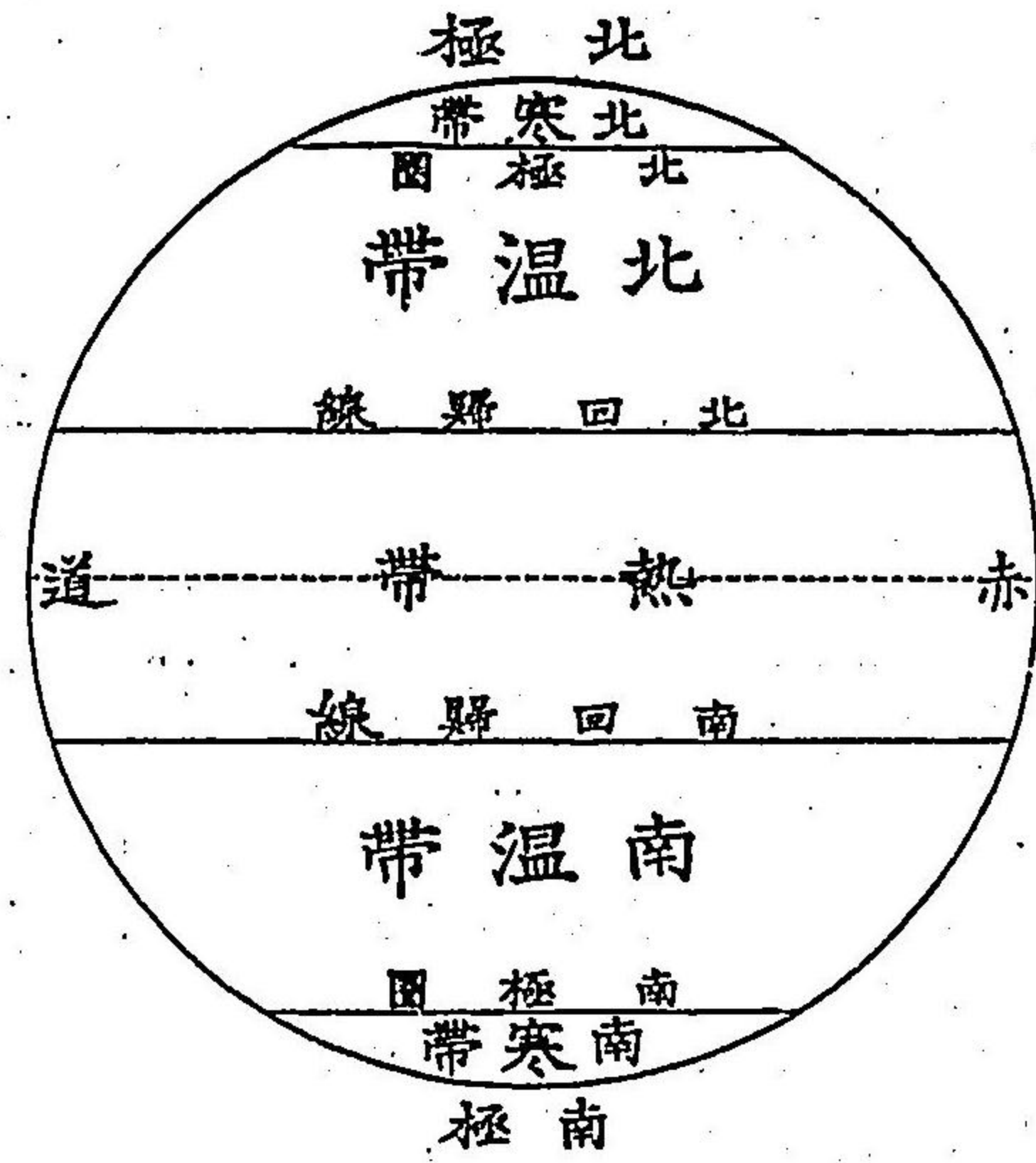
圖ス示ヲ短長ノ晝夜時ノ至夏

圖 五 十 二 第



公轉及び四季。地球が太陽の周りを廻る路を軌道といひ、一年の間に一周す、これを公轉といふ。これによりて四季及び晝夜の長短を生ず。晝夜の長短。北半球にては、六月二十一日(夏至)晝最も長く、十二月二十一日(冬至)夜最も長し、三月二十一日(春分)、九月二十三日(秋分)晝夜の長さ相等し。春分、秋分兩日にては、太陽眞東より出で、眞西

圖 六 十 二 第



に没す。夏至には、東より北に偏りて出で、冬至には南に偏りて出づ。夏至には、正午に、太陽最も高く、冬至には、最も低く照らす。

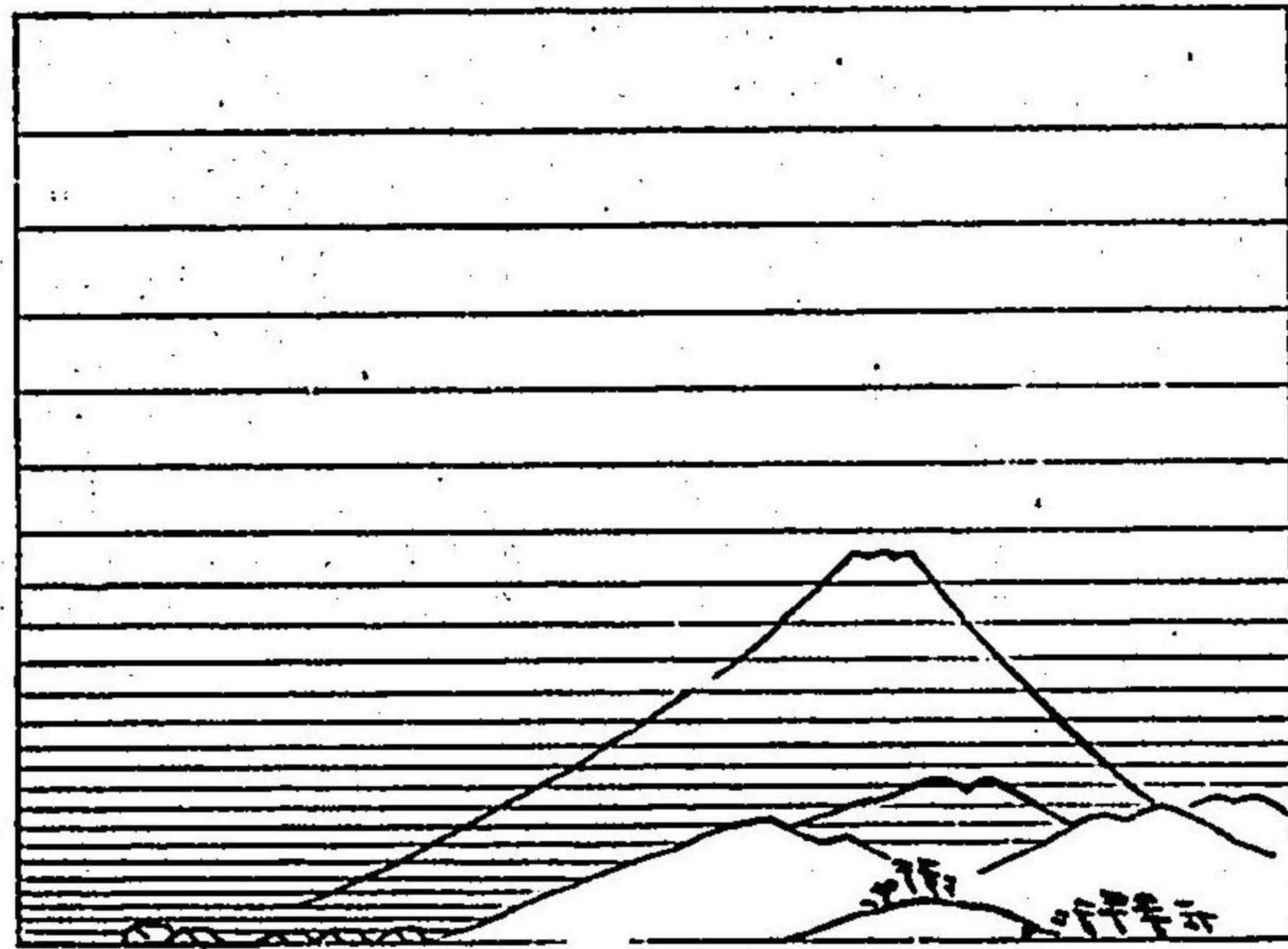
五氣候帶。兩回歸線内は、太陽頭上の方角に近く射るを以て、氣候炎熱なり、これを熱帯といふ。又南北兩極圈内は、太陽斜に射り、且これを見ざる日もこれあるが故に、氣候寒冷なり、これを

寒帶といふ、其の間は、氣候温和なるを以て温帶といふ。

第三章。 地文地理。

第一節。 氣界。

圖七十二第



高度ト空ノ氣ノ疎密

空氣。 空氣は、重要なるガス體にして、地球の全體を包む、其狀、恰も卵白の卵黄を包むが如し。常に吾人の周圍に充ちて、如何なる處にても、有らざるはなし。其動くときは、風となる。空氣は色なく、臭なくして、見るべからず。其成分は、目方百分中、窒素七十九、酸素二十一の混

合にして、其他水蒸氣、炭酸ガス等を含めども、其量甚だ少し。

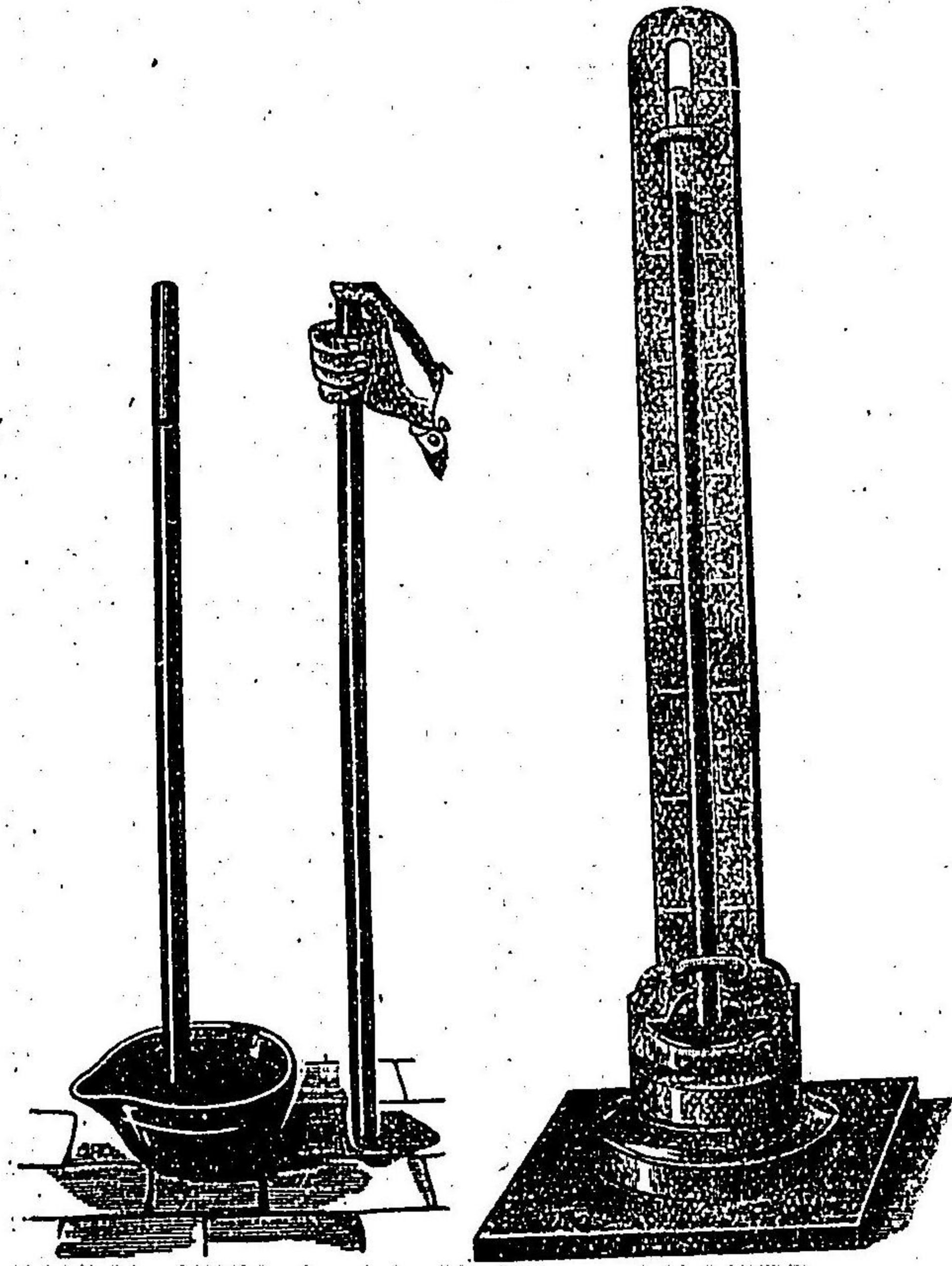
空氣の高度。 空氣の下層は密にして、上方に昇るに従ひ、益其の密度を減じ、遂には動物の生活し得べからざるに至る。富士山の如き高山に登りて、呼吸甚だ困難なるは、人の能く知る處なり。

氣壓及風。 空氣は、一の物體にして、目方を有し、地球を包むものなれば、下層にあるものは、上層にあるものゝ爲めに壓しつけられ、地面に接する所は、壓力大に、上際に至るに従ひ、壓力小なり。空氣の下方に壓す力を氣壓といふ、其の氣壓の高低を計る器械を晴雨計といふ。

晴雨計を以てすれば、氣壓の變りは、實に明かに顯はるゝものにて、人の少しも感ぜざる小なる差異と雖ども、此器には能

く感ずるものなり。故に山の麓に於て、晴雨計を檢し、更に頂上

圖 八 十 二 第



圖ノ計雨晴

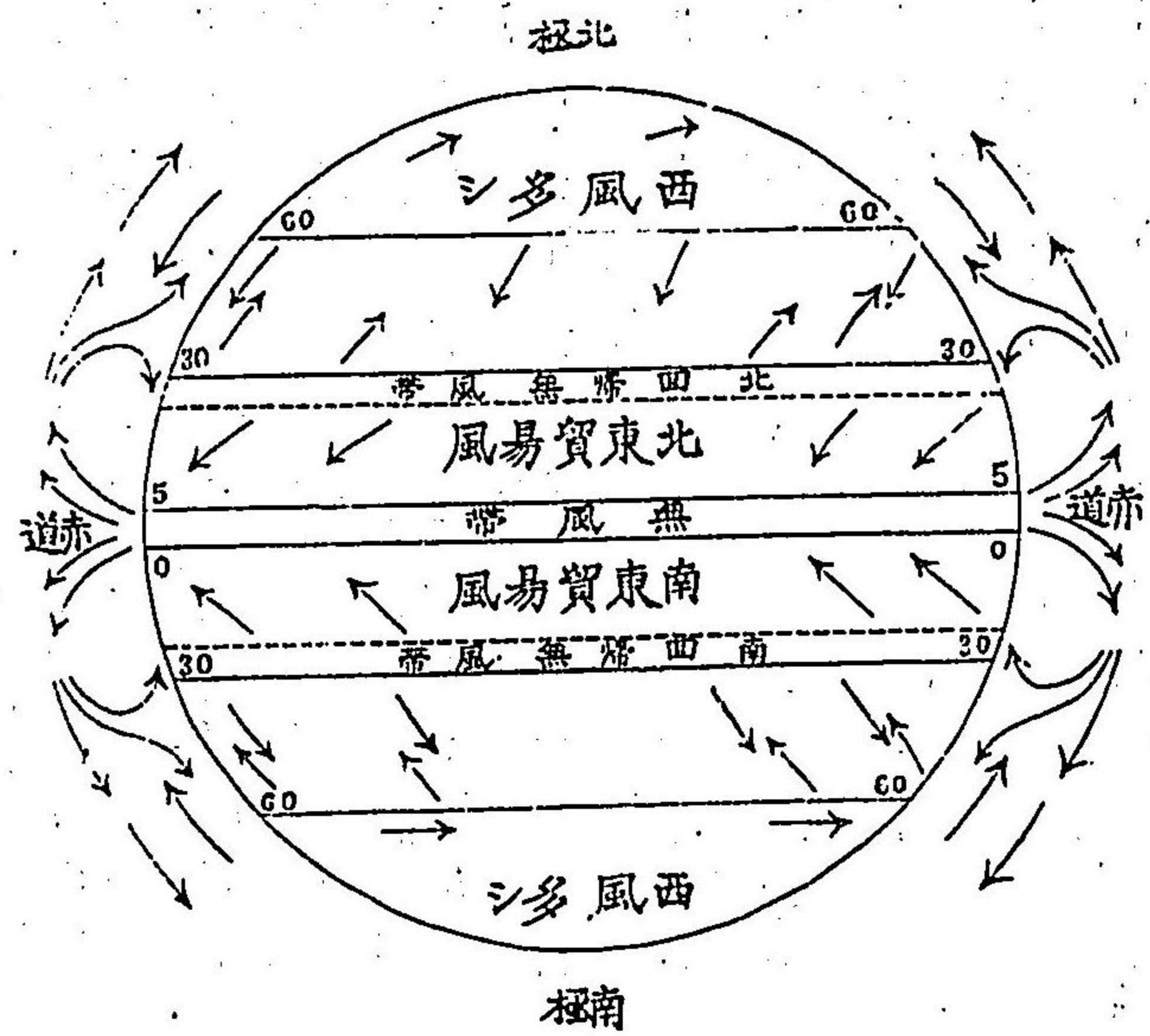
に登りて、再びこれを見るときは、其差によりて、其山の高さを測り得るなり。

又晴雨計を或る一所に置くも、時によりて、著しき變化を見ることあり。これ其地の空氣の目方、或は増し、或は減するに、よるものなり。空氣温かくなるときは、膨脹して軽くなり、これがため、他方に向ひて流れ、他の冷かなる空氣、其跡を充さんとして、空氣の運動を生ず。此運動を風といふ。

貿易風。 熱帶地方は、空氣の交換著しきを以て、年中殆んど一定の方向に吹く風あり。北半球に於ては、東北より吹き、南半球にては、東南より吹けり。これを貿易風と名づく。

我國の季候風。 冬季には、アジア大陸甚しく寒冷にして、氣壓高きを以て、此處を中心として、四方に吹く風あり、我國にて

圖九十二第



圖ノ向風界世

射する處は暑く、斜射する處は寒し。

は、西北風なり。又夏季は、アジア大陸に低氣壓ありて、空氣は四方より、此處に向ひ集るを以て、我國にては、東南の風あり、斯の如き風を季候風といふ。

空氣の温度。 空氣の温度は、主として太陽の高低如何に關係するものなり。太陽直

又土地高ければ寒く、低ければ温かなり。これ空氣の温度は、一旦地面に受けたる熱の輻射によるもの多ければなり。

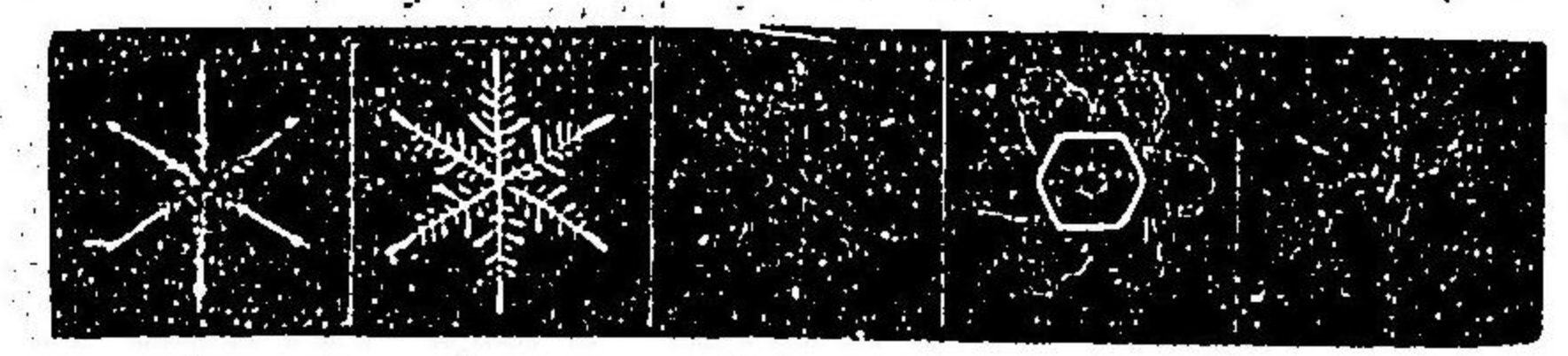
空氣の濕度。 空氣は、酸素・窒素の二つより成るものなれども、通常は多少水蒸氣を含めり。而して温度高きときは、水蒸氣を含み得る量多し。

然れども、如何程にても、多量の水分を含み得べきものにあらず、自ら其限りあり、此限りを飽和といふ。

水分を多く含みたる空氣寒冷なる他の空氣、又は山岳等に觸るるときは、其水分凝りて微少なる水球となるこれ即ち雲なり。霧も雲と異なることなしと雖ども、唯其低き處にあるを以て其名を異にするのみ。

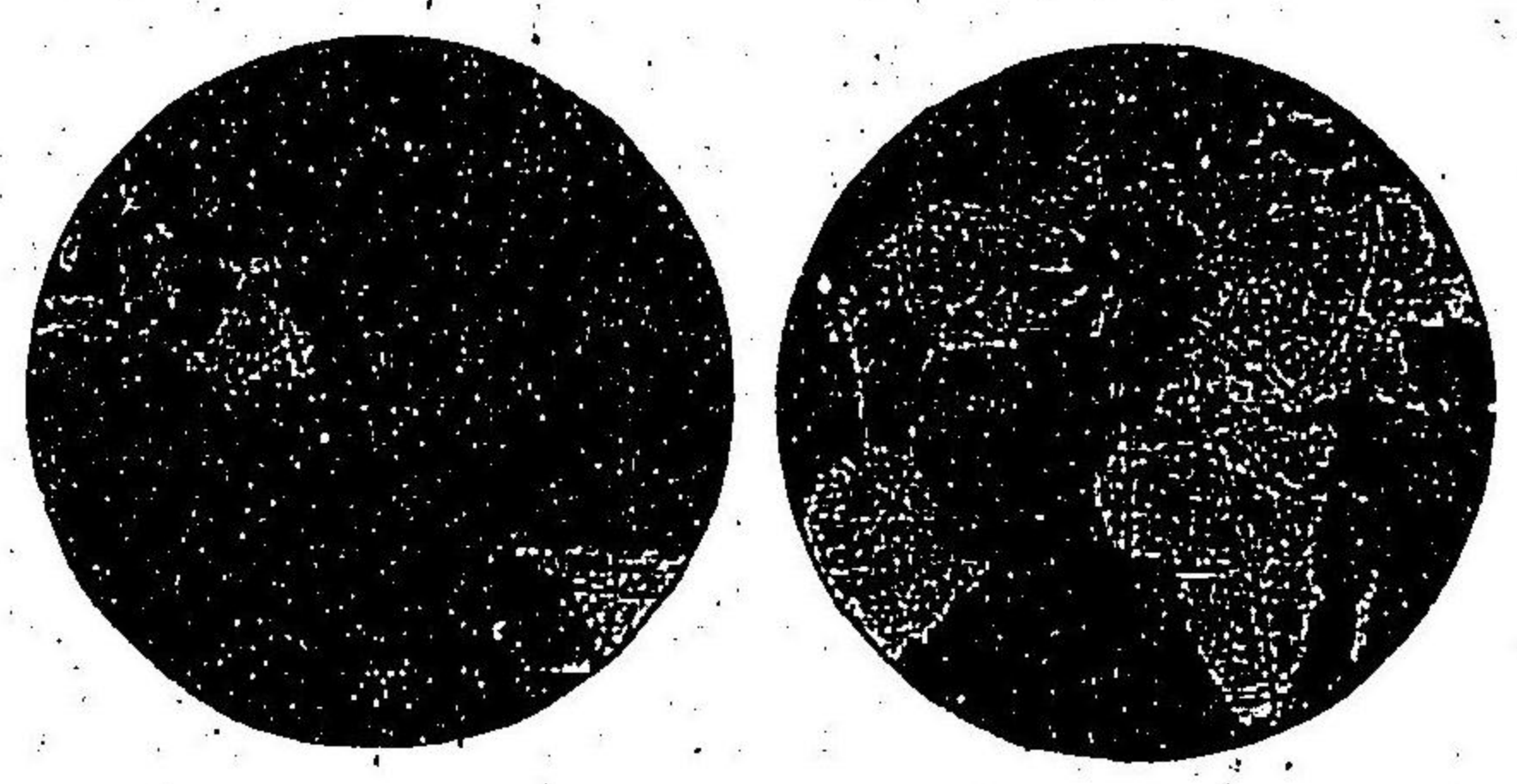
雨雪。 水分の凝縮盛にして、其量多きときは、水球互に密着

第三十圖



雪ノ結晶品

第三十一圖



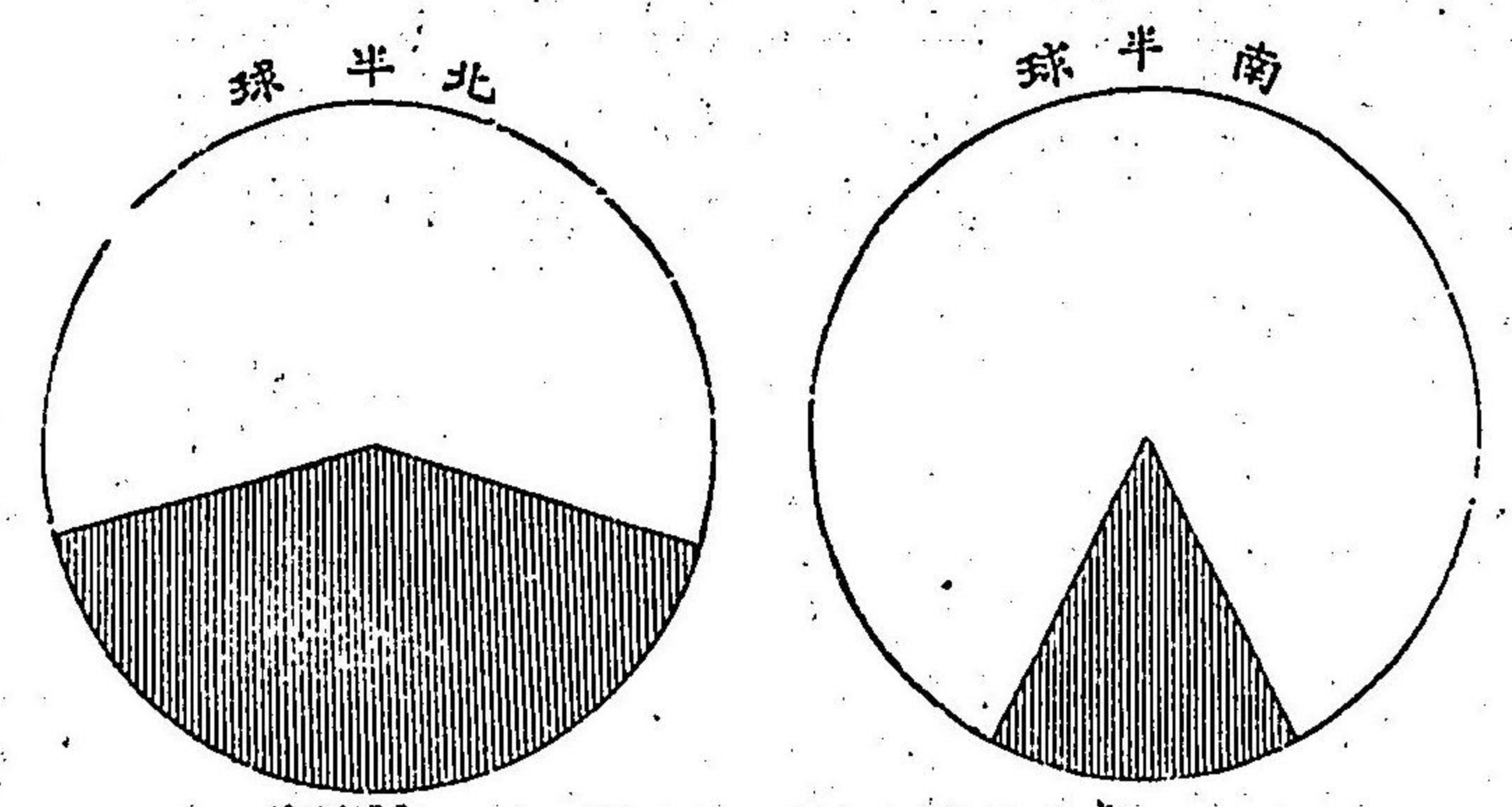
陸半球及水半球

して大となり、遂に地に降る、これを雨といふ、若し空氣の温度零度より下るときは、凍りて雪となる。

第二節 水界

水と陸 地球の表面は、水と陸とより成り、水は南半球に多く、陸は北半球に多し。而して洋海の面積は、凡そ二千四百萬方里に

第三十二圖



水陸面積ノ比例 (陸ハ北半球ニ多シ)

して、陸地の面積は、凡そ八百七十七萬方里なり。其割合は凡そ地球全面積の四分の一は、陸にして、四分の三は、水なり。

洋海 洋海を分て五とす。太平洋、印度洋、大西洋、南氷洋、北氷洋これなり。

大洋の一部にして、多少陸地に圍まれたるを海といふ、日本海は此例なり、又海の一部、陸地の間に入り込みたるを灣といふ、東京灣、大阪灣等の如し、而して其港と

稱すべきものは、水深くして、船の碇泊に便なる處なり。

海峽とは、陸と陸との間に挟まれたる、狭き海の部分をいふ。津輕海峽、下の關海峽等これなり。凡て海峽は二つの海を連ぬるものなれば、交通運搬等に最も便利なること、恰も陸地に於ける運河の如し。

水の深淺。 洋海の底も、陸地に高低あるが如く、凹凸ありと雖ども、陸上の如く、其の傾き急ならず、大抵は緩かなりとす。

海底にも甚だ深き所ありて、世界第一の高山たるヒマラヤ山を以て、海底の最も深き所に比するも、尙足らざるところあり。而して洋海平均の深さは、陸地平均の高さより遙かに大なり。海岸の地平かなる砂濱なれば、其近傍の海は淺く、又海岸急峻なる所は、急に深きを常とす。

洋海の中にて最も深き所は、我が國の正南に位するニュー・ジーランドの北にありて、深さ五哩半あり。これに次ぐを我が千嶋の東方にある、タスカロラ海床とす。深さ凡そ五哩あり。

四面海にて圍まれたる小なる陸地を、嶋といひ、島の小なるものを、嶼といふ。水面に表はれざるも、これに近く達する岩を、暗礁といふ。又河水のために運搬せられたる土砂等にて、河口に洲をなす所あり、洲の水面上に出で、河水これが爲めに、數多の分流に分るゝ所あり、これを三角洲と名づく、其形三角形なるを以てなり。此の如くして生じたる土地は、地層の中、最も新しきものにて、地味概ね肥沃なり。

海水の性質。 海水は陸上の水と異にして、これを味へば著しき鹹味あり、これ諸種の鹽類を含めるを以てなり、故に海水

は、陸地の水より重し、されば其の物を浮ぶる力も亦淡水より強し。

海水深ければ藍色なり、これ太陽の光の一部を吸収するに
よる。

海水に紅色なるものあるは、水中に甚だ微小なる有機物を
混ずるによる。夜間に光を發する海水あるも、亦この作用によ
る。

海水の温度。 陸地が太陽熱により温めらるゝが如く、海水
にも、亦緯度と季節とによりて、寒暖の差あり。故に熱帶地方の
海水は、温暖なれども、温帶、寒帶の地方に至れば、海水は寒冷な
り、亦一年中、八月は最も温にして、二月は最も冷かなり。但し海
水の温度の差は、其の表面にのみ存するものなれば、熱帶地方

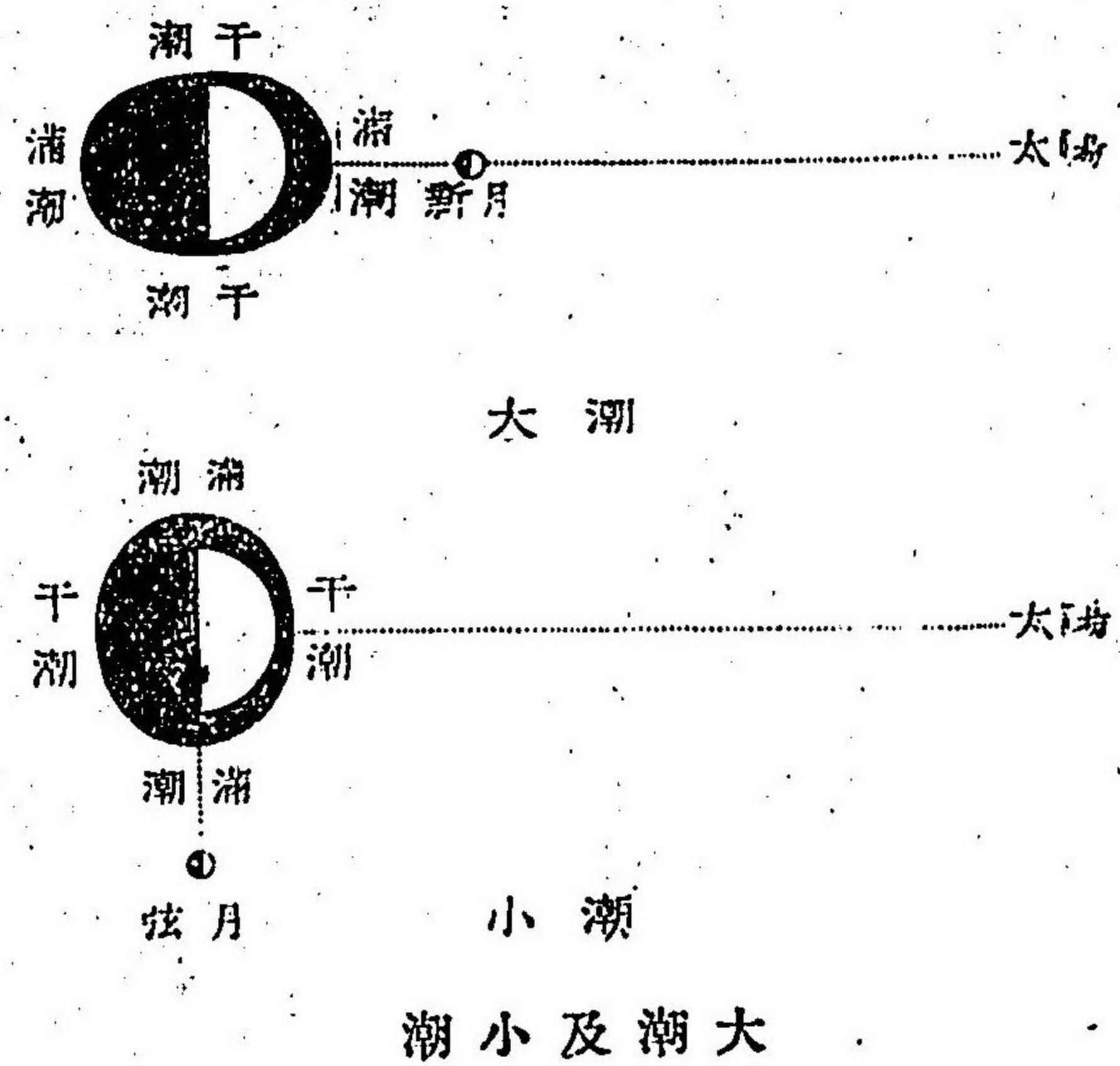
の水と雖ども、最も深き所は、頗る寒冷なり。

海水の運動。 海水は、常に運動して、暫らくも止むときなし、
其の運動に種々あり、波、潮汐、海流これなり。

波。 波は海水其所にありて、上下に振ひ動き、次第に四方に
傳はるものなり。されども其力は、深く水中に及ばず。故に水面
に浮むものは、波の爲めに揺り動かさるゝと雖ども、其割合に
は位置を變へざるなり。波の力は、水中の深き所まで達せざれ
ば、海底を侵す力なしと雖ども、絶えず海岸を打つが故に、これ
を破る力は、頗る大なるものなり。

波は、通常風によりて起るものなれども、亦地震に伴ひて起
ることあり、これを津浪といふ。波には甚だ高きものあるが如
く、感ずれども、割合に低くして、五六十尺を超ゆるものは、極め

圖三十三第



て稀なりとす。

潮汐。潮汐は、太陽及び

太陰の引力によりて起る海水の運動なり。抑太陰は、太陽に比ぶれば、其の體小なれども、地球に近きが故に海水に潮汐を感ぜしむる力は、却て大にして、凡る太陽の二倍餘なり。

各地潮の高低は、海の形

によりて差あり。

海流。海水表面の一部、常に一定の方向に流るるを海流と

いふ。これに寒流と暖流との二種あり。

太平洋の暖流は、赤道に沿ひて東より西に流る、其大部はマレイ諸島の東に至りて北に折れ、臺灣の東岸より九州四國の南岸を洗ふ、黒潮と稱する暖流は即ちこれなり、本洲の中部より、更に東北に赴き、北アメリカ洲の西岸に沿ひて南に流れ、再び本に還る。

大西洋にも、東より西に流るる暖流あり、南アメリカ洲の東岸に於て二分し、大部分は北に赴き、メキシコ灣に入り、更に東北に轉ず、これを灣流といふ。分れて二派となり、一は南に下り、一はヨーロッパ洲の西岸を流れて北氷洋に入る。

印度洋にあるものも、亦東より西に流れ、アフリカ洲の東岸に接して南・北二派に分る。

圖 四 十 三 第



圖 ノ 礁 環

寒流に種々あり、オコック海に起り、千嶋諸嶋に沿ひ、本島の東岸に接して南下するものを親潮といふ。

又北アメリカ洲の東岸を南下する、ラブラドル海流も亦有名なり。

第三節 陸界。

陸の區分。陸とは、水面の上に表れたる土地をいふ、別ちて大陸及び島とす。

大陸とは陸の大なるもの

いふ、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、南アメリカ、北アメリカの六大陸あり、前の四者を東半球とも、舊大陸ともいひ、後の二者を西半球とも、新大陸ともいふ。

島とは、四面水に圍まれたる面積小なる陸をいふ。これを分て二種とす、我國の伊豆七嶋の如く、地熱の作用によりて、噴き出でたるを火山嶋といひ、珊瑚の介殼積みて島をなせるものを珊瑚嶋といふ。又排列によりて、名を命ずることあり、我千島の如く、列をなせるものを列嶋と稱し、瀬戸内海の諸島の如く、不規則に散在せるを群嶋といふ。

陸地の形

地形。陸地の形ちは、多くは南に向ひて突出し、從ひて海岸線の出入も、南に多くして、北に少し、海岸急峻なるか、或は平か

にして砂濱をなし、海底淺き所は、舟を繋ぐに宜しからず、而して半嶋とは、陸地が海中に延び出でたる部分にして、二つの地を連ぬる狭き地を、地峽といふ、陸の海中に突出したる尖端を岬と稱す。

地勢。 地勢とは、土地の高低、輪廓等地面の有様なり、土地を高低により大別して平地、山地、窪地となす。

平地は、又**平原**とも稱す、即ち關東の平原、濃尾の平地等の如きこれなり、其の地味肥沃なる所は、田圃開け、庭園連り、都會立ち、村落接し、實に人類の好住所なり。

山地。 地面の高き所を山地といひ、其最も高きものを山といふ、山の低きものを丘陵といふ。

山若し群り立つときは、山彙と稱し、長く連亘せるを山脈と

いひ、山脈の大なるを山系といふ。

窪地。 土地低くして、海面以下にある所を窪地と稱す、我國には、これなしと雖ども、裏海の沿岸には、廣大なるものあり。

陸地の水。 陸地の水には、泉、井、川、湖等あり。

泉。 地上に降りたる雨水の一部は蒸發し、一部は川となり、他の一部は、地中に滲み込み、地下水となる、地下水の地中を潜み流れて、再び地面に出づるものを泉といふ、泉に二種あり、温泉、冷泉これなり。

温泉は、地下水の地熱作用によりて生ずるものなれば、火山地方に多し、我國は火山多きを以て、温泉も亦多し。

三。 川の成因に三あり、一、雨水、二、融雪、三、泉これなり、川は多少屈曲せざるはなし、其湖或は海に注ぐ所を河口といひ、川の

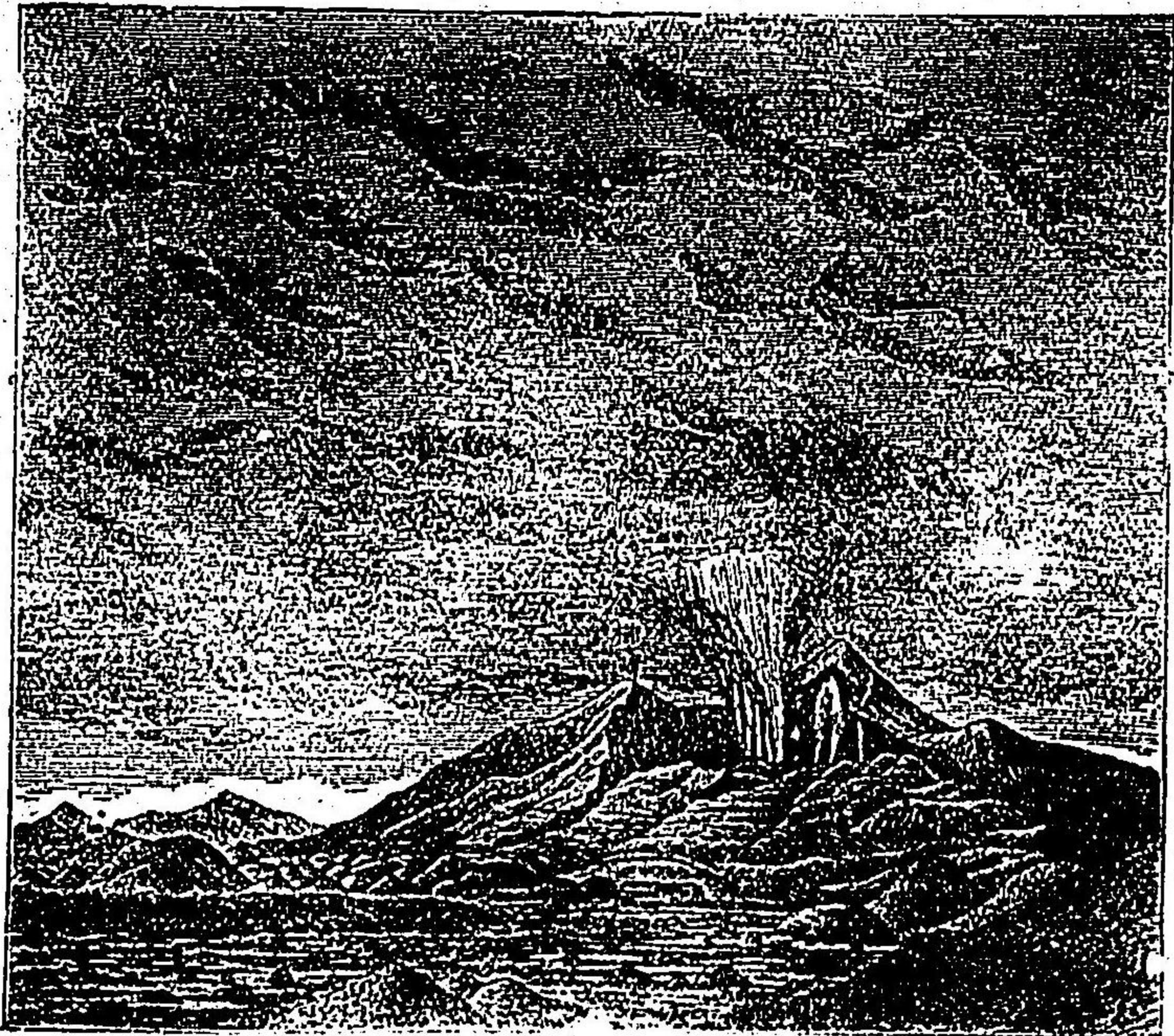
流れに沿ひて下流に向ひ、左を左岸とし、右を右岸とす。又他の小川が、來りて會するものを支流といひ、本流より分るゝものを分流といふ。

一つの川流の灌ぐ地方を流域と稱し、流域を分つ所の高き地を分水界といふ。

湖 湖とは、地面の凹き所に溜りたる水をいふ。我國の湖は、其の水淡きも、裏海、プアル海の如きは、其水鹹し、これを鹹湖といふ。鹹湖は、河水を受くるのみにして、出口なく、唯蒸發するのみ、有名なる死海は、鹽分甚た多くして、魚類を生ぜず。

水源の保護 川の源たる山林は、地面を掩ひて陰をなし、其地を冷かならしめ、空氣中の水蒸氣を凝縮せしめて、雨となし、又水分の急に蒸發するを防ぎ、兼ねて暴雨の際、一時に流れ下

第三十五圖



岩代國耶麻郡原村ヨリ磐梯山ヲ望ム圖(破裂ヨリ三週後)
岩代國耶麻郡原村ヨリ磐梯山ヲ望ム圖(破裂ヨリ三週後)

りて、洪水をなすの害を豫防す。故に山林を濫伐するときは、雨降れば急に漲り、雨止めば忽ち涸れ、加ふるに土砂を運びて河床を埋め、降雨の量を減じ、遂に沃野を變じて、荒

地となすに至る。

地味。 地味とは、植物を生長せしむる土地の成分と構造とをいふ。其成分多くして、構造よろしきときは、肥沃といひ、これに反するとき、瘠地といふ。

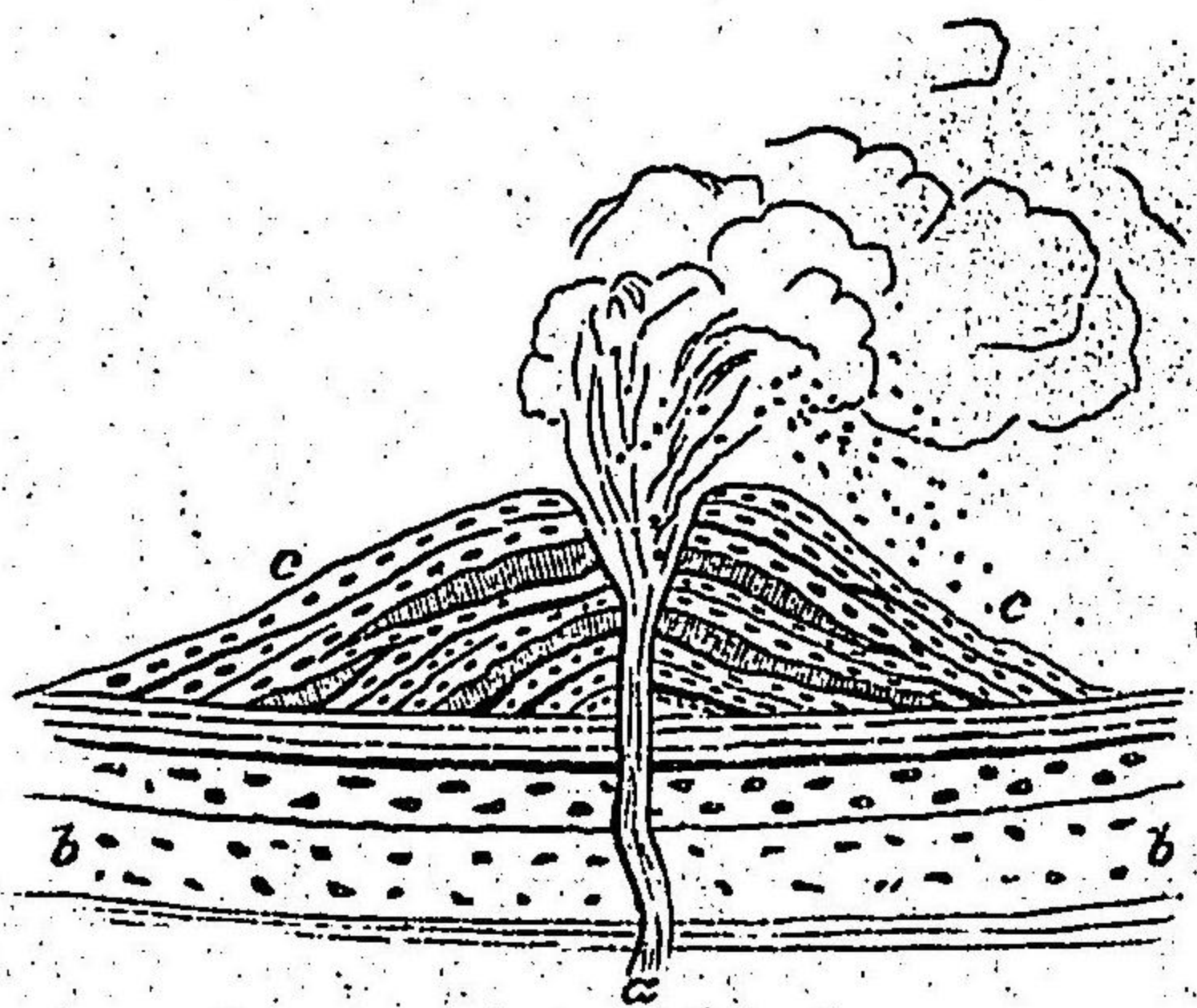
而して植物の生育すべき土地を土壤といふ。

火山。 火山とは、水蒸氣・灰

砂・熔けたる岩汁(熔岩)等を噴き出す山をいふ。地熱地の裂れ目を傳ふて、地上に發散するが爲に、生ずるものなり。

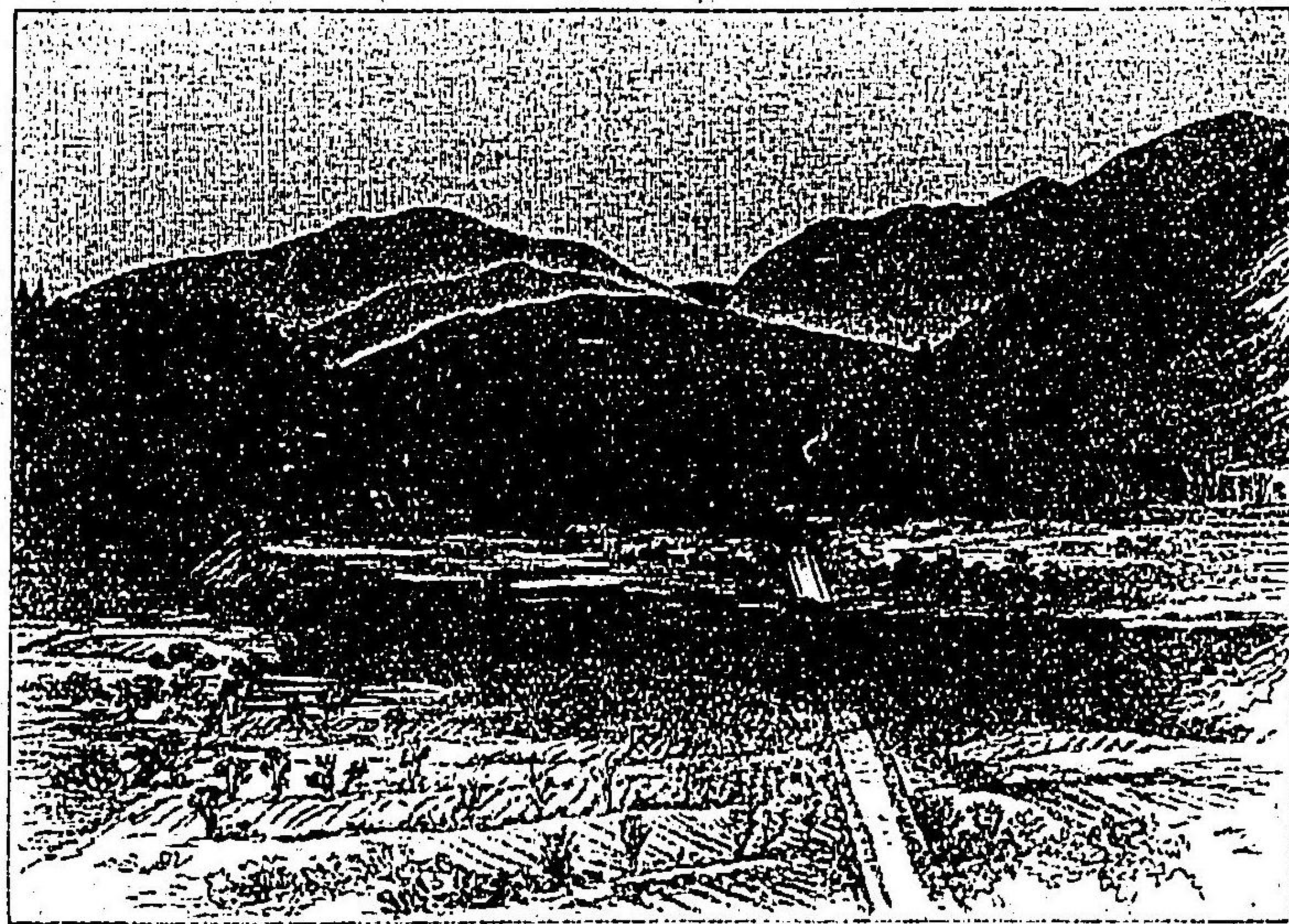
地震。 地震とは、地の震ふ

圖六十三第



火山断面圖

圖七十三第



濃尾震災大斷層

ことにて、上下に動くときは、これを上下動といひ、横に動くときは、これを水平動といふ。

地震は、火山の破裂、地沈り等より起る。海底に地沈り起るときは、地震と共に廣大なる濤を生ず、これを津浪といふ。

土地の昇降。 陸地

が徐々に沈降して海底となり、海底次第に降起して、陸地となることあり。東京の大部は、古へ海底なりしも次第に昂起して陸地となり、彼安宅の關の今は海底となりしが如き實例極めて多し。

第四節 氣候

氣候の差を生ずる原因に種々あり。

- 1. 赤道近傍は熱く、これを距ること遠きに從ひ、次第に寒し。
- 2. 高き土地は涼しく、低き土地は暖かなり。
- 3. 山脈の向背は、大に氣候に關係す。
- 4. 風の方向は氣候に關係す。凡て大陸より吹く風は、濕氣少く、海面より吹く風は、濕氣多きによる。又極に近き地方より吹き來る風は、寒く、赤道に近き地方より吹き來る風は、

暖かなり。

5. 九州、四國の南端の如く、暖流に洗はるゝ所は、温かにして千嶋の如く、寒流に觸るゝ地は、冷かなり。

第五節 天産

一 植物 氣候の異同によりて、植物の種類に差あり。熱帶地

方は、草木殊に茂り、年中青々として、甘美なる果實、絶えず、勞せずして食物を得るが故に、住民の氣風自ら懶惰に流れ、習識の度甚だ低し。芭蕉、椰子、珈琲等は、此地方の特産なり。温帶地方は、即ち我國の如く、植物の種類に富めども、冬に至れば、落葉するもの多く、又穀物もよく熟すれども、勞せざれば食を得ること能はず。從て智識開け、盛なる邦國多し。

温帶より、寒帶に進めば、樹木漸く稀に、幹も亦小なり、更に進

めば、樹木なく、只短小なる草あるのみ。斯の如き地方の人民は、獸を獵し、或は流水を取りて、家を造り、或は氷室に住みて、纔に生活するのみ。此地方の人は、衣食に全力を注ぎ、他の事を顧る暇なし。

二動物 熱帶地方に棲める動物は、其體大にして猛きもの多し。獅子・虎・鱷等これなり。温帶地方に至れば、牛・馬・兎等多く、寒帶地方は、熊・馴鹿等の類を産す。斯の如く、動物も亦所によりて大差あり。

三鑛物 鑛物を大別して四類とす。

1. 貴金屬及び寶石にして、金・銀・金剛石等此種に屬す。金・銀は南・北兩アメリカ・南部アフリカ及びオーストラリアより多く出で、金剛石は、ブラジル・印度・南部アフリカより産す。

2. 建築用鑛物は、花崗石・大理石等の如く、橋・石垣・家屋等を造るに用ふ。

3. 工業用鑛物は、鐵・銅・亜鉛等の如く、各種の機械及び器具を作るの用に供す。

4. 燃焼用鑛物は、石炭・石油・硫黃等の如く、これを燃して、熱を發せしめ、或は明りを取るに用ふ。

第四章 人文地理

第一節 人種

人類は、萬物の靈長にして、よく外界の變化に應じ、各所に移住すること自由なれば、世界の陸地には、殆んど人類の住まざる所なく、全數凡そ十五億人あり。

世界の人種を、白人種・黃人種・黑人種の三つに大別す。

1. 白人種 此人種は鼻高く、目凹み、概ね文明の民なり。ヨーロッパ、北アメリカ及びアジアの西南部に住す。

2. 黄人種 此人種は概して髪直く、頬高し、鼻は高からず。アジアに最も多し、開化の度進みたるものもあれども、又よく開けざる所もあり。

3. 黒人種 此人種は鼻低く、毛縮み、身體の構造、文化の程度、共に他の人種より劣れり。アフリカに最も多し。

第二節 國

土地と人口とを備へ、其人民共同して、一定の政府を立つるを國といふ。國に獨立國、屬國、保護國の別あり。

獨立國とは、毫も他國の干渉を受けず、一國獨立して、其政を施すものをいひ、屬國とは、全く他の獨立國に屬するものをい

ふ。保護國とは、國勢弱く、獨立すること能はずして、他國の保護を仰ぐものをいふ。

第三節 交通

交通の便、不便は、國の發達に、大なる關係あり。抑も交通の目的は、天然の妨害を除き、距離を縮め、人の往來を便にし、物産の運搬を容易ならしむるにあり。

一、通路 古代人智未だ開けざりしときは、河及び河岸の平地によりてのみ交通せしものなり。今日といへども、河岸に都會の多きを見れば、河川の交通上、大切なるを知るべし。

航路 船舶の通ずる路を航路といふ。昔は帆船のみなりしときは、航路は現今の如く、多からざりしが、蒸氣船の發明ありしより、以來、自在に遠洋を航するに至れり。

道路 陸上の通路を道路といふ、其良否は以て國民の文明と野蠻とを區別するに足る、然れども交通頻繁なるに従ひ、一層便利なるものに依らざるべからず。

鐵道 我國にて鐵道を設けしは、明治五年東京横濱の間を以て始めとす、尋いて東京京都の間成り、現今は全國必要の場所には、概ね通ぜざるなく、其長さ凡そ三千五百哩に達せり。

二、運送の具 運送の具も、通路の發達に伴ひて、益便利を極むるに至れり、即ち帆船は蒸氣船となり、肩輿は瀛車となれり、又昔し音信を通ずるに用ひし飛脚は、今は郵便となり、電信、電話となるに至れり、我國にて郵便の制を設けられしは、明治四年にして、電信は明治二年、電話は明治二十三年より設けられたり。

三、運轉の力 運送の便益を望まんには、運轉の力を改良せざるべからず、例へば古へは風力のみを用ひて、舟を行りしに今は蒸氣の力を用ふるが如し。

第四節 宗教

各國の人民、各信ずる所の神佛ありて、これを尊崇する習俗あり、宗教の中にて主なるもの三あり、佛敎、基督敎、回敎これなり。

アジアにては、佛敎徒最も多く、回敎徒これに次ぐ、ヨーロッパ・アメリカは、基督敎頗る盛なり。

第五節 政治

世界各國の政體を分ちて立君政體と民主政體との二つとす。

一、立君政體とは、君主上にありて國を治むるものにて、專制と立憲との二種あり、我國及びイギリス・ドイツ等は立憲政體にして、支那及びロシア等は專制政體なり、これ等の國を君主國と稱し、君主の尊號帝なるときは帝國といひ、王なるときは王國といふ。

二、民主政體とは、國民の撰舉したる長官、即ち大統領を以て、政府の首長となすものなり。フランス及び新世界の國々は、大抵この政體なり、斯る國を共和國といふ。

第五章 地理史。

古へは、各國人民、何れも其郷土あることを知りて、他國あるを知らざりき、且地球を以て、平かなるものとせしが、交通の道漸く開くるに從ひ、始めて他に國土、人民あることを知るに至

れり、然れども其の知れる所は、皆地球表面の一小部分に過ぎざりき。

然るにトレミーと稱する人、世に出づるに及びて、世界をヨーロッパ、アジア、アフリカの三部となしたりき。然れども此以外は更に知ることなかりき。

ヨーロッパ人の支那及び我國を知りしは、遠くギリシヤ、ローマ時代にありしが、一層これを詳にせしは、今より六百年間イタリーの旅行家、マルコ・ポロ氏にして、氏は元の國に仕へて其の重臣となり、歸るに及んで、一篇の紀行文を著し、支那の東海中にシバングーと稱する島國ありて、非常に富めりといひしに始まれり。

コロンブス氏は、ポロ氏の説を聞き、西に航して日本に達せ

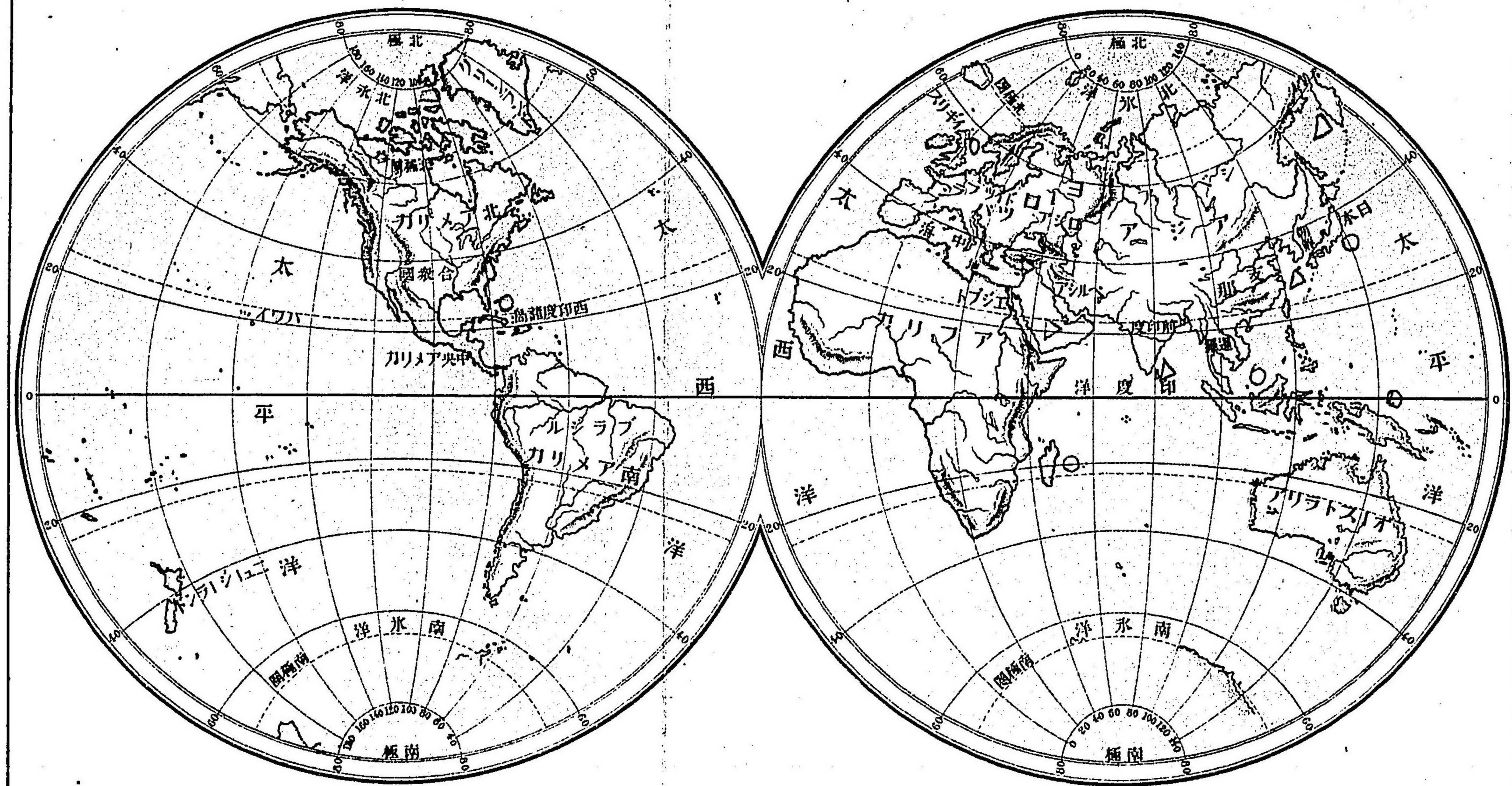
んとし、終にアメリカを發見せり。
 此發見に次ぎ、西曆紀元千四百餘年、ヴァスコ・ダ・ガマ氏は、喜望峰を周り、其後二十五年、マジェラン氏は、始めて地球を一周せり。
 我國の三韓及び支那と交通せし事蹟に就ては、歴史上明かなり、而して西洋諸國あることを知るに至りしは、今より凡そ四百十年前、ポルチユガルの人、種子嶋に至り、鐵砲を傳へしに始まれり。爾後外人、屢我國に來り、世人一般に西洋諸國あることを知るに至れり。

地理學新教科書終

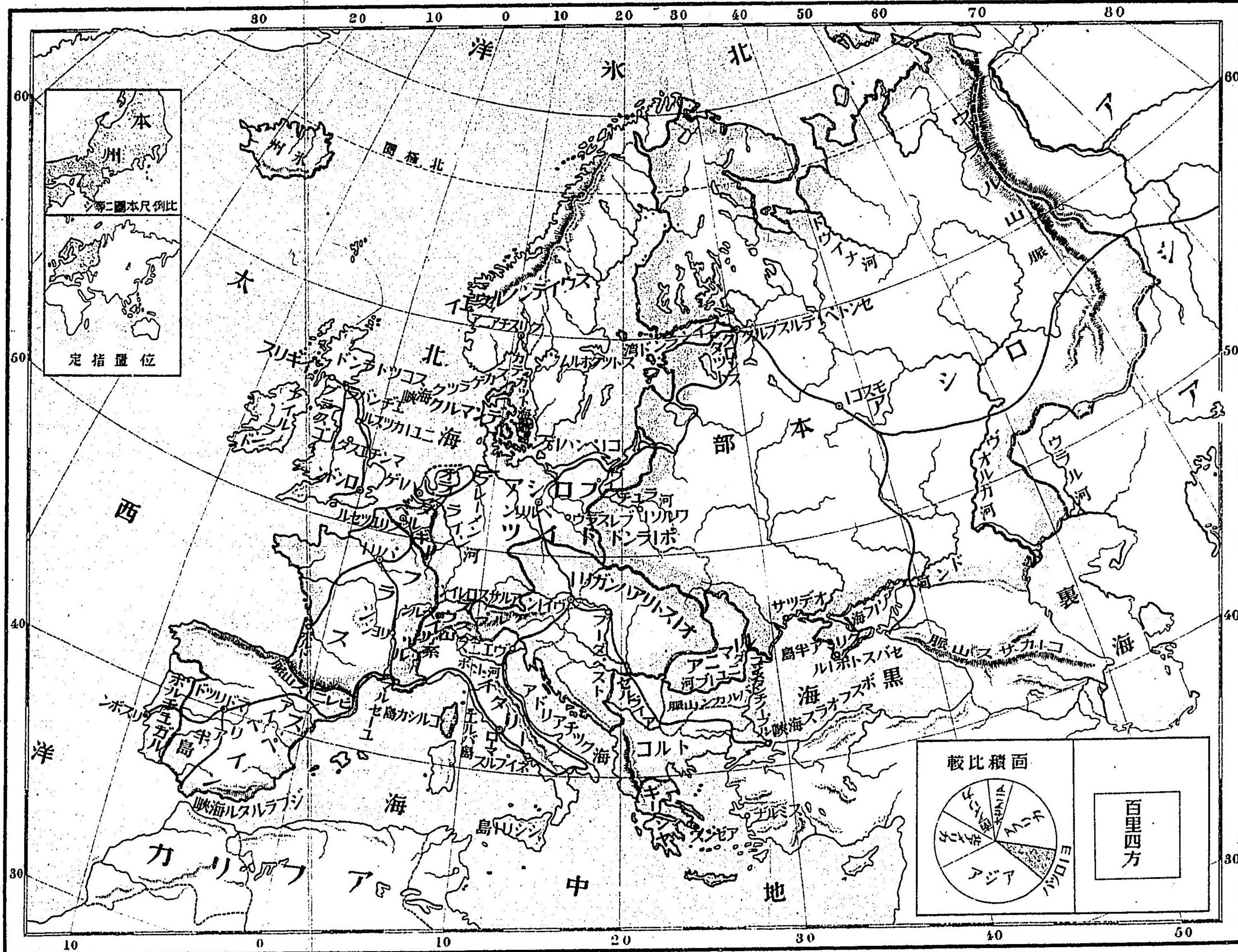
兩半球

西半球

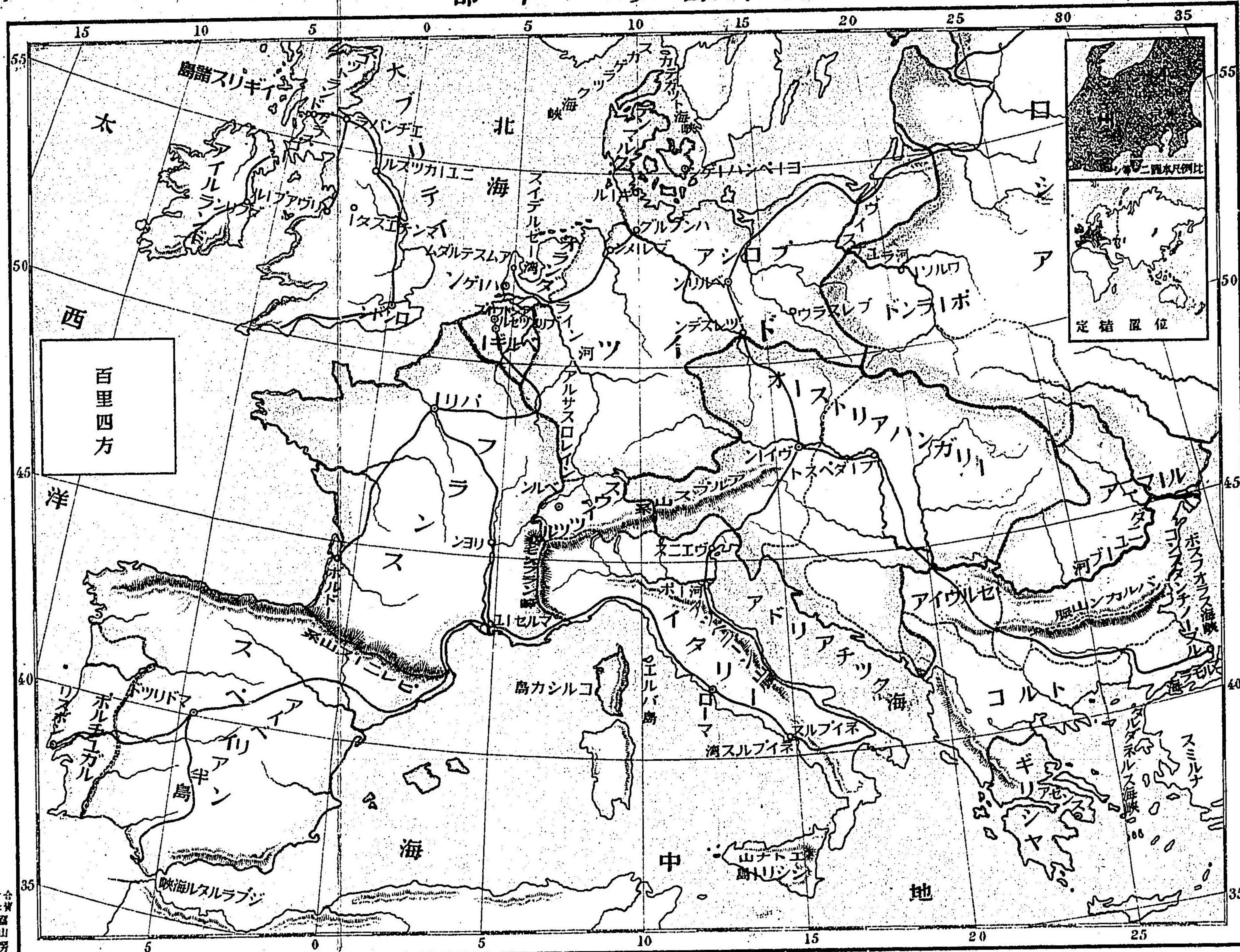
東半球



パツロイヨ



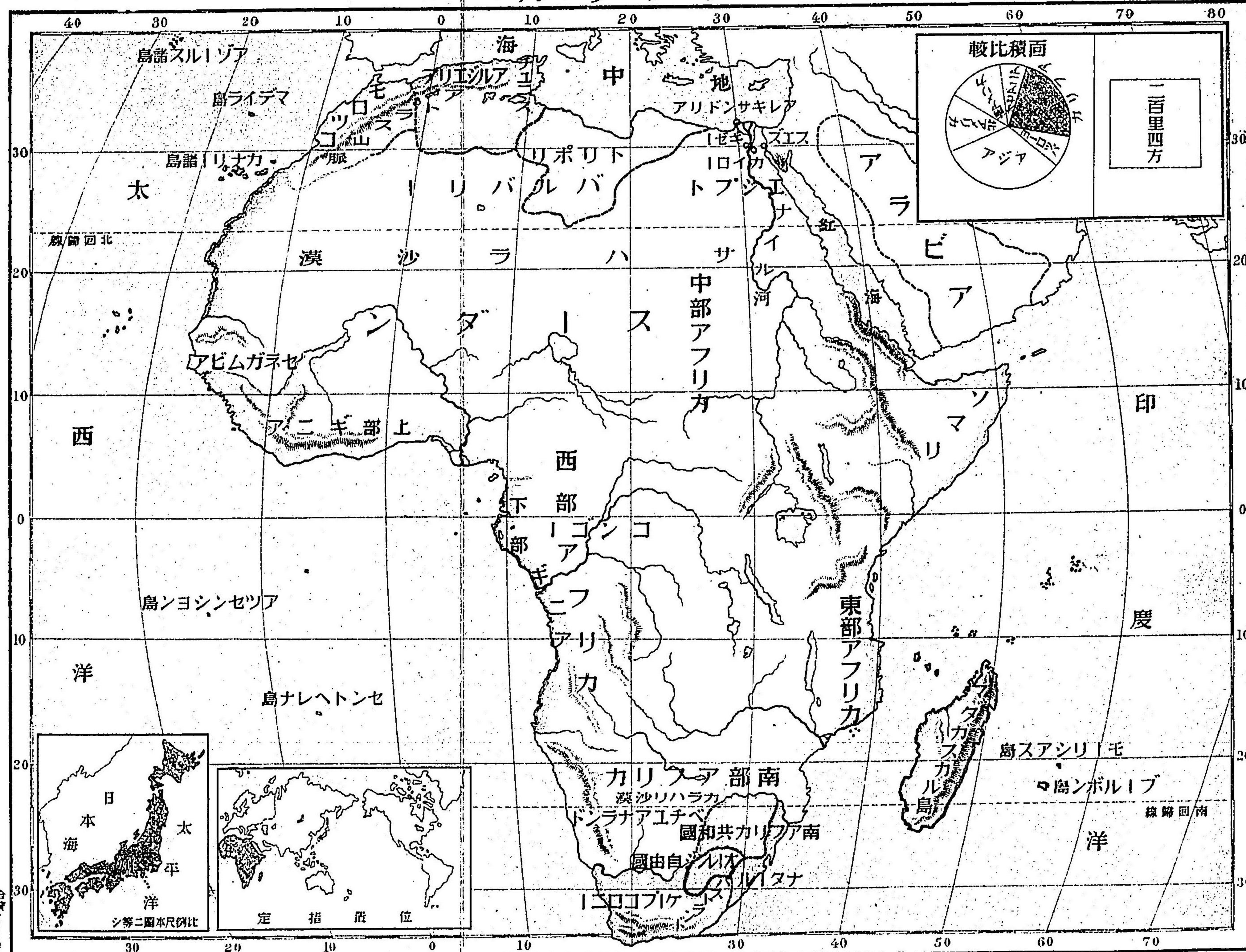
ヨロパツ中部



百里四方

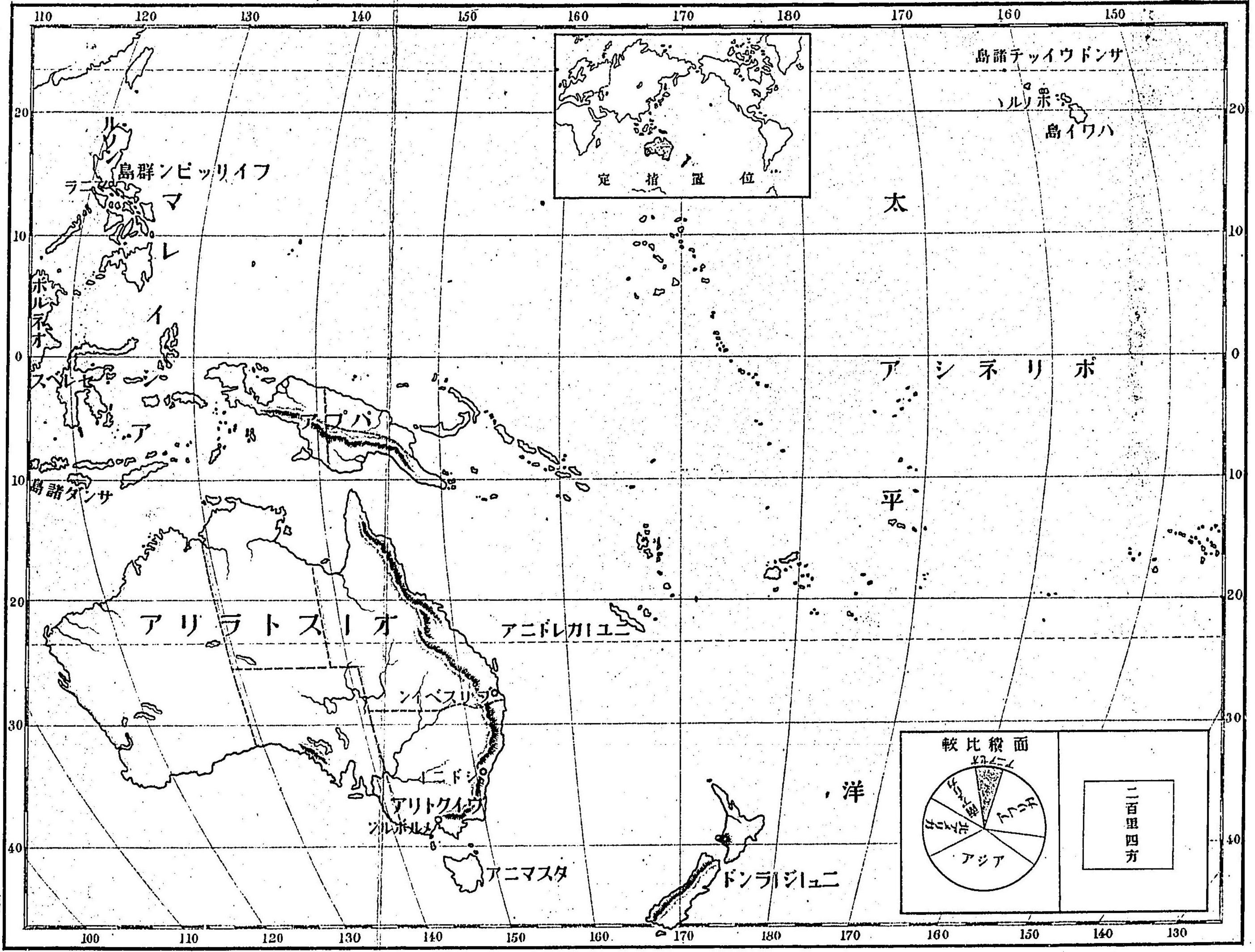
台資
山房

カリフア



台
社
富
山
房

アニアセオ



台
社
富
山
房

明治三十二年十二月一日印刷
明治三十二年十二月四日發行

(地理學新教科書附)

定價金四拾五錢

著述者 太田保一郎
著述者 加藤庄三郎

東京市神田區裏神保町九番地

發行者 合資會社 富山房

合資會社富山房社長

代表者 坂本嘉治馬

東京市日本橋區兜町二番地

印刷者 星野譔次郎

東京市日本橋區兜町二番地

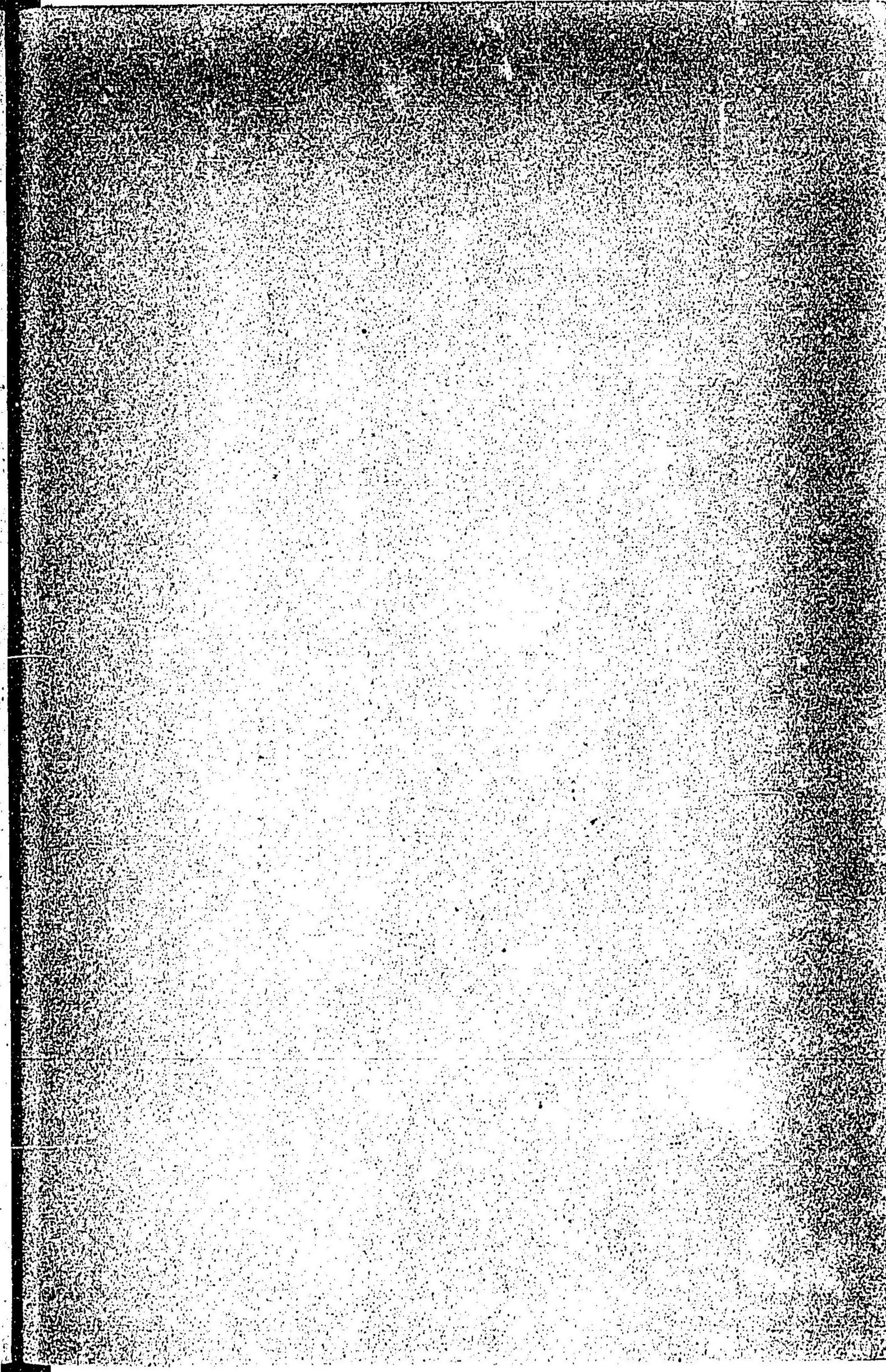
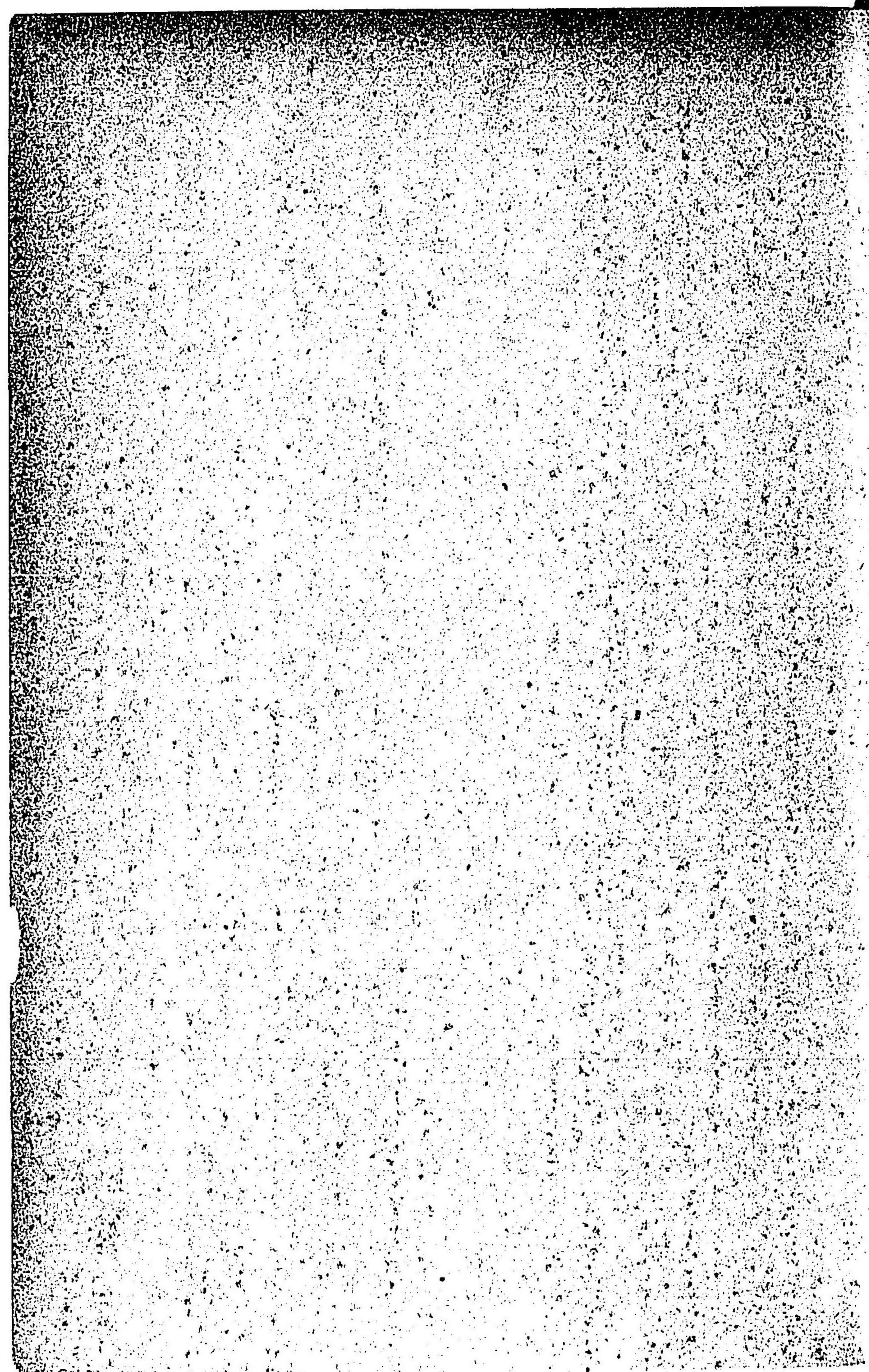
印刷所 東京印刷株式會社

發兌書肆

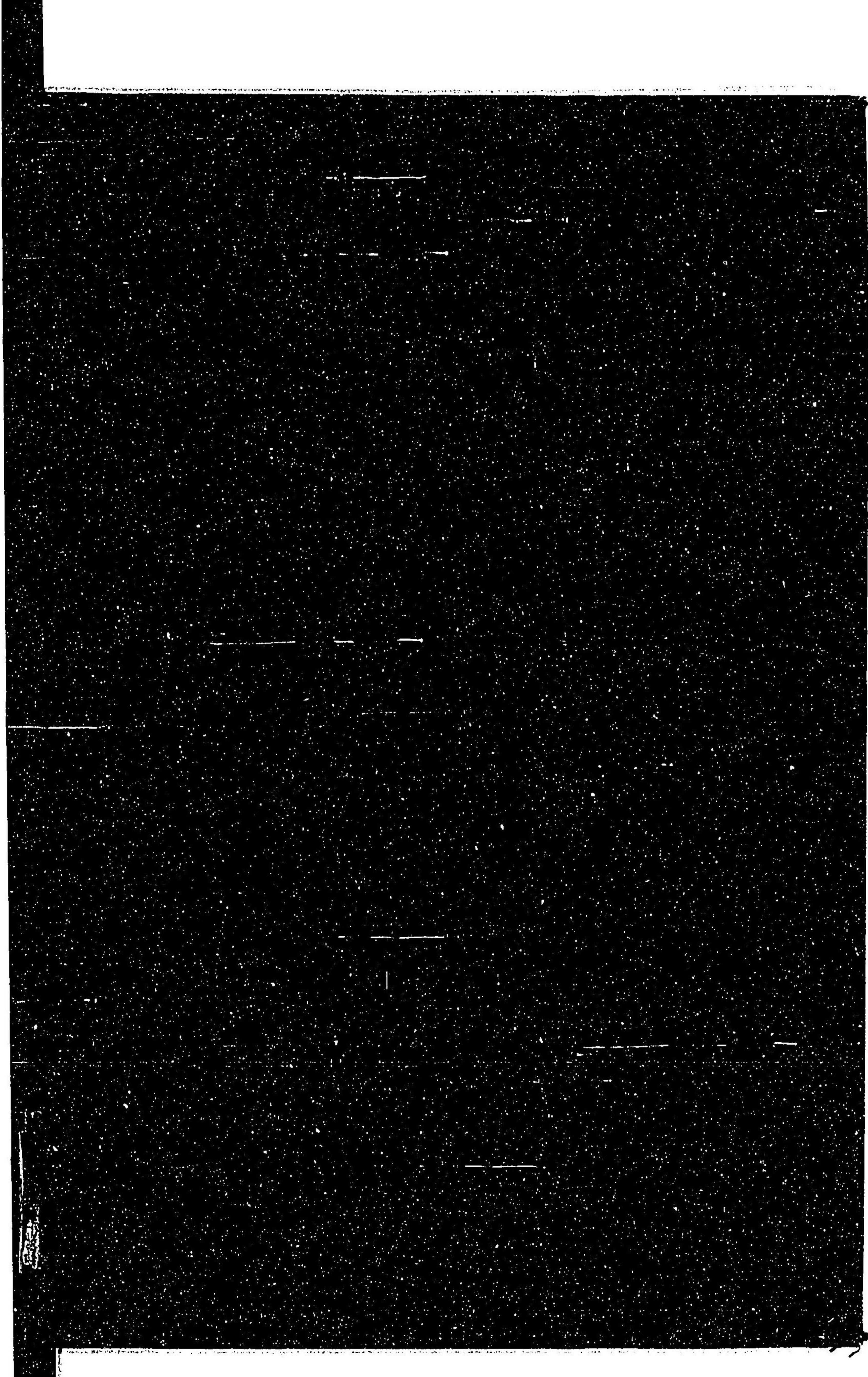
富山房

信電報號發(ヤマノ) (長距離) 電話本局一〇三六番

(明治廿九年) 合資會社



86
63



86
63

022145-000-0

86-63

地理学新教科書

太田 保一郎/著

M32

ADA-0550



